

令和 2 年度

第 2 回青少年意見募集事業結果

テーマ

次代を担う若者に聞く第 5 次男女共同参画基本計画策定に

当たっての基本的な考え方（素案）について

（提案元：内閣府男女共同参画局）

意見受付期間

令和 2 年 7 月 27 日（月）～8 月 16 日（日）

令和 2 年 9 月

主に自由回答形式の質問に対する回答を、回答の要点ごとに分析して集計し、分類ごとに主な意見を掲載している。意見の掲載に当たっては、必要に応じ、要約している。

第2回 次代を担う若者に聞く第5次男女共同参画基本計画策定に当たっての 基本的な考え方（素案）について（内閣府男女共同参画局）

1. 設問

- 質問1 男女共同参画とは、「社会のあらゆる分野に男女共に平等に参加できる社会を目指す」ものです。
あなたはこのテーマにどの程度関心がありますか。
- 質問2-1 「家庭生活・親族との付き合い」の場で、男女は平等に扱われていると思いますか。
- 質問2-2 「学校教育」の場で、男女は平等に扱われていると思いますか。
- 質問2-3 「就職活動」の場で、男女は平等に扱われていると思いますか。
- 質問2-4 「職場」で、男女は平等に扱われていると思いますか。
- 質問3-1 これまで、「男であるから／女であるから」という理由で不公平を感じた経験はありますか。
- 質問3-2 （質問3-1で「ある」を選んだ方）
どのような場でその経験をしましたか。
- 質問3-3 （質問3-1で「ある」を選んだ方）
前問で選んだ経験について、具体的に教えてください。
- 質問4-1 将来家庭をもつとしたら、家計を支える（収入を得る）役割の分担をどうしていきたいと
思いますか。（※現在家庭をもっている方は、希望についてお答えください。）
- 質問4-2 （質問4-1で「その他」を選んだ方）具体的に教えてください。
- 質問5-1 将来家庭をもつとしたら、家事分担をどうしていきたいと思いますか。
（※現在家庭をもっている方は、希望についてお答えください。）
- 質問5-2 （質問5-1で「その他」を選んだ方）具体的に教えてください。
- 質問6-1 将来家庭をもつとしたら、子育ての分担をどうしていきたいと思いますか。
（※現在家庭をもっている方は、希望についてお答えください。）
- 質問6-2 （質問6-1で「その他」を選んだ方）具体的に教えてください。
- 質問7-1 あなたと、上の世代の人との間で男女平等への考え方にギャップを感じることはありますか。
- 質問7-2 （質問7-1で「非常に感じる」、「やや感じる」を選んだ方）
それはどんなことについてですか。具体的に教えてください。
- 質問8-1 「男女共同参画社会」の実現をより進めていくためには、どのようなことが重要だと
思いますか。最も重要だと思うものを1つだけ選んでください。
- 質問8-2 （質問8-1で「その他」を選んだ方）具体的に教えてください。

※自由記述形式の質問への回答については、取りまとめるに当たり、一部編集を行った。

令和2年度 第2回青少年意見募集事業結果

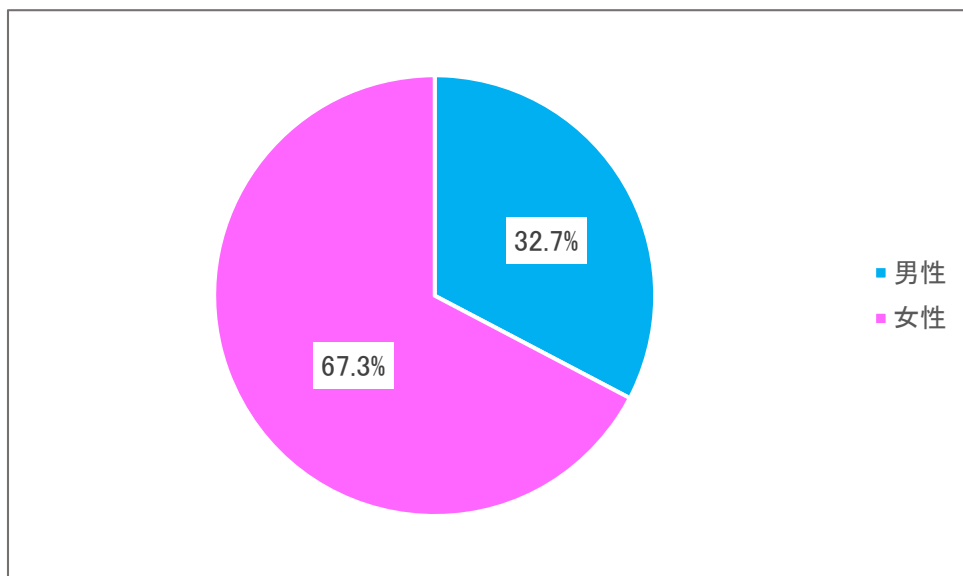
2. 意見受付期間

令和2年7月27日（月）～8月16日（日）

3. 回答者数・回答属性

【回答者数】 男性：86名 女性：177名 合計：263名 （配信数：384名、回答率：68.5%）

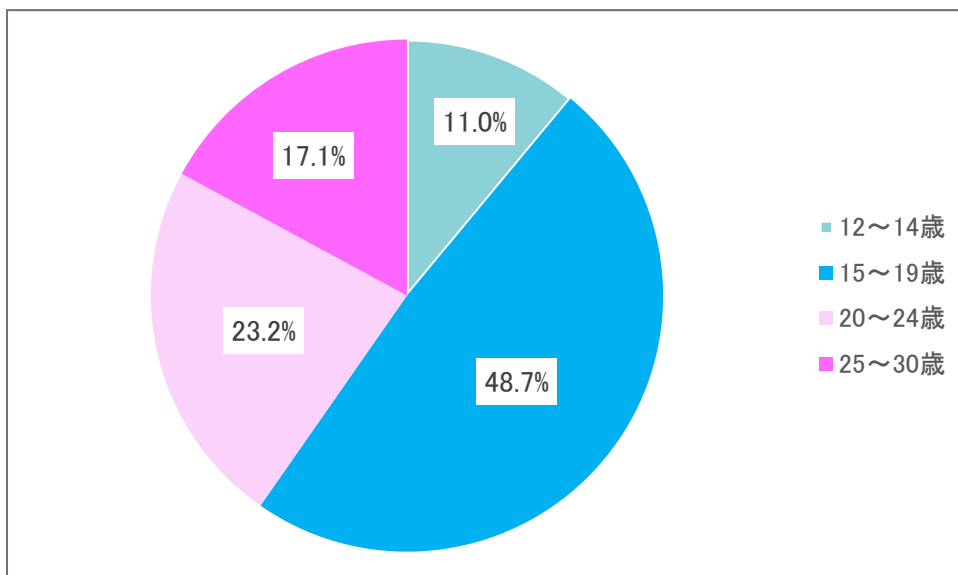
【性別】 男性が32.7%、女性が67.3%であった。



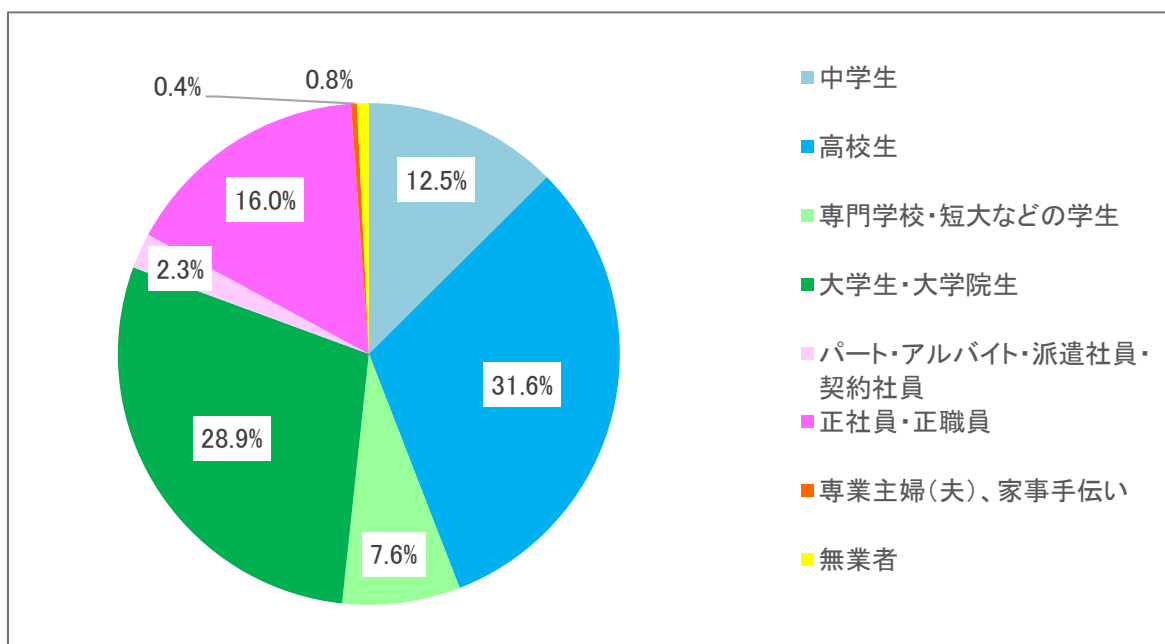
令和2年度 第2回青少年意見募集事業結果

【年齢】 12～14歳が11.0%、15～19歳が48.7%、20～24歳が23.2%、25～30歳が17.1%であった。
(*)

*1:令和2年4月1日時点での年齢は29歳だが調査時点で30歳となった3名含む

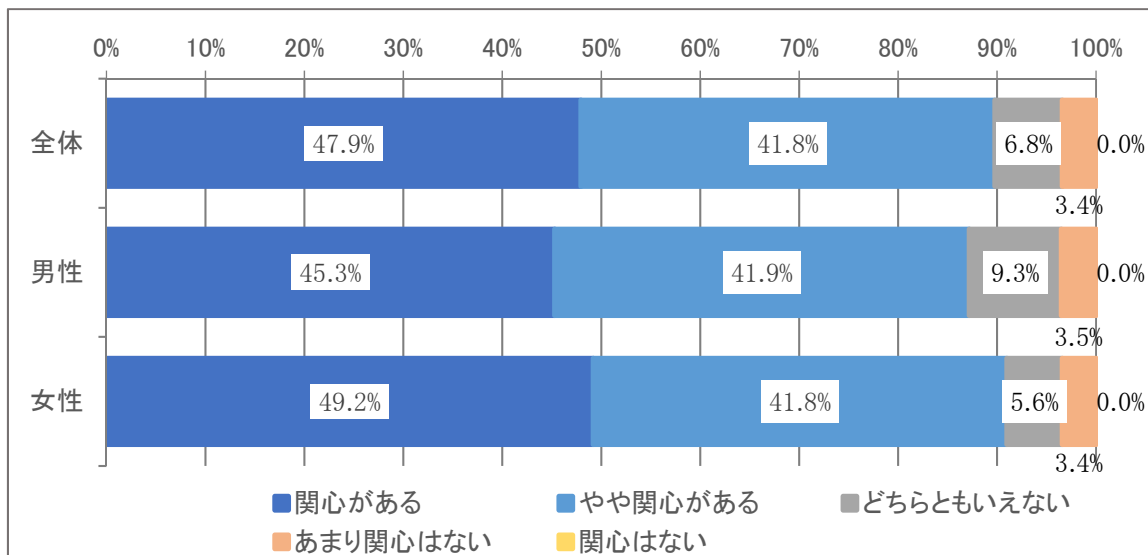


【職業】 中学生が12.5%、高校生が31.6%、専門学校・短大などの学生が7.6%、
大学生・大学院生が28.9%、パート・アルバイト・派遣社員・契約社員が2.3%、
正社員・正職員が16.0%、専業主婦(夫)・家事手伝いが0.4%、無業者が0.8%であった。



4. 集計結果

質問1 男女共同参画とは、「社会のあらゆる分野に男女共に平等に参加できる社会を目指す」ものです。あなたはこのテーマにどの程度関心がありますか。



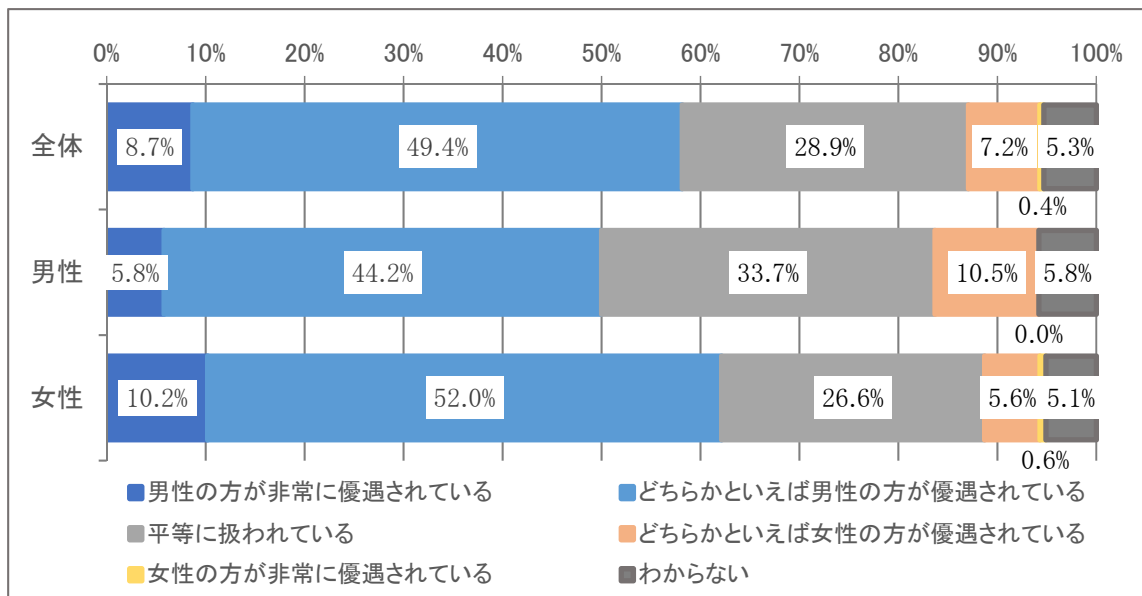
- 全体で見ると、男女共同参画に47.9%が「関心がある」、41.8%が「やや関心がある」と回答し、全体の89.7%が『関心がある』（「関心がある」+「やや関心がある」）と回答した。
- 年代別で見ると、「関心がある」と回答した割合について、「20～24歳」は62.3%で、他の年代と比べて15ポイント以上高くなっている。
- 男女別で見ると、『関心がある』と回答した割合は、男性が87.2%、女性が91.0%であり、男女とも高い水準であるものの、女性の方がやや強い関心を持っている傾向にあった。

令和2年度 第2回青少年意見募集事業結果

上段:人数 下段:(%)		全 体	関心が ある	やや関心 がある	どちらとも いえない	あまり関 心はない	関心は ない
全体		263	126	110	18	9	0
		100.0%	47.9%	41.8%	6.8%	3.4%	0.0%
性別	男性	86	39	36	8	3	0
		100.0%	45.3%	41.9%	9.3%	3.5%	0.0%
	女性	177	87	74	10	6	0
		100.0%	49.2%	41.8%	5.6%	3.4%	0.0%
年齢	12～14歳	29	11	14	4	0	0
		100.0%	37.9%	48.3%	13.8%	0.0%	0.0%
	15～19歳	128	58	55	10	5	0
		100.0%	45.3%	43.0%	7.8%	3.9%	0.0%
	20～24歳	61	38	21	2	0	0
		100.0%	62.3%	34.4%	3.3%	0.0%	0.0%
	25～30歳(*1)	45	19	20	2	4	0
		100.0%	42.2%	44.4%	4.4%	8.9%	0.0%
性別× 年齢	男性12～14歳	12	4	5	3	0	0
		100.0%	33.3%	41.7%	25.0%	0.0%	0.0%
	男性15～19歳	42	16	21	3	2	0
		100.0%	38.1%	50.0%	7.1%	4.8%	0.0%
	男性20～24歳	16	11	4	1	0	0
		100.0%	68.8%	25.0%	6.3%	0.0%	0.0%
	男性25～30歳(*1)	16	8	6	1	1	0
		100.0%	50.0%	37.5%	6.3%	6.3%	0.0%
	女性12～14歳	17	7	9	1	0	0
		100.0%	41.2%	52.9%	5.9%	0.0%	0.0%
	女性15～19歳	86	42	34	7	3	0
		100.0%	48.8%	39.5%	8.1%	3.5%	0.0%
	女性20～24歳	45	27	17	1	0	0
		100.0%	60.0%	37.8%	2.2%	0.0%	0.0%
	女性25～30歳(*1)	29	11	14	1	3	0
		100.0%	37.9%	48.3%	3.4%	10.3%	0.0%
属性	中学生	33	13	15	5	0	0
		100.0%	39.4%	45.5%	15.2%	0.0%	0.0%
	高校生	83	38	37	5	3	0
		100.0%	45.8%	44.6%	6.0%	3.6%	0.0%
	専門学校・ 短大などの学生	20	9	10	1	0	0
		100.0%	45.0%	50.0%	5.0%	0.0%	0.0%
	大学生・大学院生	76	44	25	4	3	0
		100.0%	57.9%	32.9%	5.3%	3.9%	0.0%
パート・アルバイト・ 派遣社員・契約社員	6	2	4	0	0	0	
	100.0%	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	
正社員・正職員	42	18	19	2	3	0	
	100.0%	42.9%	45.2%	4.8%	7.1%	0.0%	
専業主婦(夫)、 家事手伝い	1	0	0	1	0	0	
	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	
無業者	2	2	0	0	0	0	
	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	

*1:令和2年4月1日時点では29歳だったが調査時点で30歳となった3名(男性2名、女性1名)含む

質問2-1 「家庭生活・親族との付き合い」の場で、男女は平等に扱われていると思いますか。



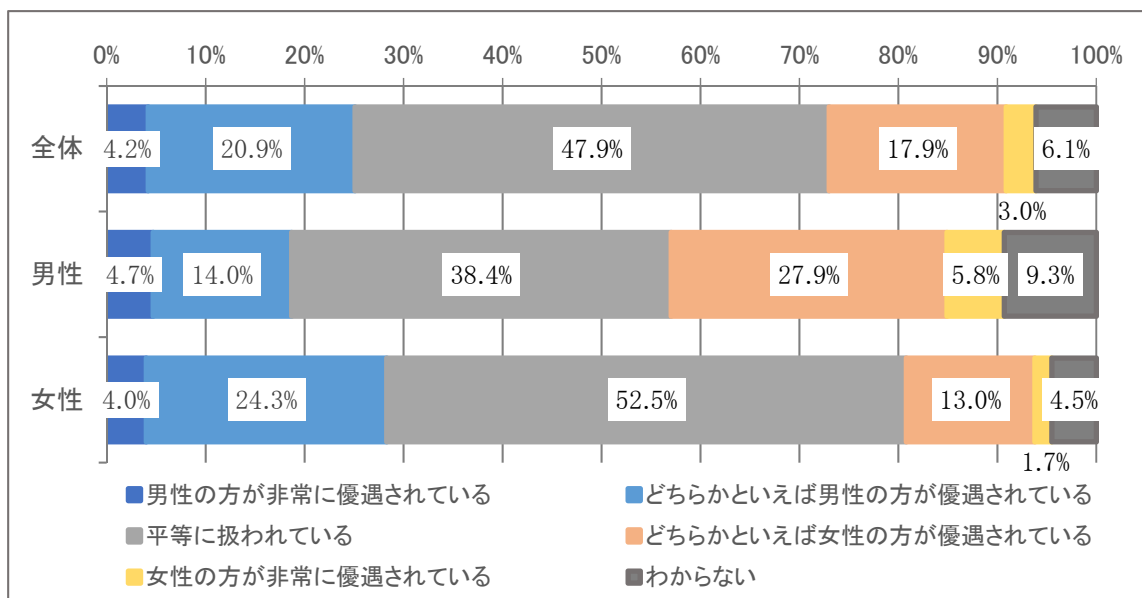
- 全体で見ると、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が49.4%で最も高く、次いで「平等に扱われている」が28.9%だった。また、58.1%が『男性の方が優遇されている』（「男性の方が非常に優遇されている」+「どちらかといえば男性の方が優遇されている」）と回答している。
- 年代別で見ると、年代が上がるにつれて、『男性の方が優遇されている』と回答する割合が高くなっている。
- 男女別で見ると、男性は50.0%、女性は62.2%が『男性の方が優遇されている』と回答している。

令和2年度 第2回青少年意見募集事業結果

		全体	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等に扱われている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない
全体		263	23	130	76	19	1	14
		100.0%	8.7%	49.4%	28.9%	7.2%	0.4%	5.3%
性別	男性	86	5	38	29	9	0	5
		100.0%	5.8%	44.2%	33.7%	10.5%	0.0%	5.8%
	女性	177	18	92	47	10	1	9
		100.0%	10.2%	52.0%	26.6%	5.6%	0.6%	5.1%
年齢	12～14歳	29	0	5	15	6	0	3
		100.0%	0.0%	17.2%	51.7%	20.7%	0.0%	10.3%
	15～19歳	128	5	62	45	10	1	5
		100.0%	3.9%	48.4%	35.2%	7.8%	0.8%	3.9%
	20～24歳	61	13	33	9	1	0	5
		100.0%	21.3%	54.1%	14.8%	1.6%	0.0%	8.2%
	25～30歳(*1)	45	5	30	7	2	0	1
		100.0%	11.1%	66.7%	15.6%	4.4%	0.0%	2.2%
性別×年齢	男性12～14歳	12	0	2	7	1	0	2
		100.0%	0.0%	16.7%	58.3%	8.3%	0.0%	16.7%
	男性15～19歳	42	0	18	17	6	0	1
		100.0%	0.0%	42.9%	40.5%	14.3%	0.0%	2.4%
	男性20～24歳	16	3	8	3	0	0	2
		100.0%	18.8%	50.0%	18.8%	0.0%	0.0%	12.5%
	男性25～30歳(*1)	16	2	10	2	2	0	0
		100.0%	12.5%	62.5%	12.5%	12.5%	0.0%	0.0%
	女性12～14歳	17	0	3	8	5	0	1
		100.0%	0.0%	17.6%	47.1%	29.4%	0.0%	5.9%
	女性15～19歳	86	5	44	28	4	1	4
		100.0%	5.8%	51.2%	32.6%	4.7%	1.2%	4.7%
	女性20～24歳	45	10	25	6	1	0	3
		100.0%	22.2%	55.6%	13.3%	2.2%	0.0%	6.7%
	女性25～30歳(*1)	29	3	20	5	0	0	1
		100.0%	10.3%	69.0%	17.2%	0.0%	0.0%	3.4%
属性	中学生	33	0	7	17	6	0	3
		100.0%	0.0%	21.2%	51.5%	18.2%	0.0%	9.1%
	高校生	83	1	36	33	9	1	3
		100.0%	1.2%	43.4%	39.8%	10.8%	1.2%	3.6%
	専門学校・短大などの学生	20	1	11	6	1	0	1
		100.0%	5.0%	55.0%	30.0%	5.0%	0.0%	5.0%
	大学生・大学院生	76	13	45	13	1	0	4
		100.0%	17.1%	59.2%	17.1%	1.3%	0.0%	5.3%
パート・アルバイト・派遣社員・契約社員	6	1	3	1	0	0	1	
	100.0%	16.7%	50.0%	16.7%	0.0%	0.0%	16.7%	
	正社員・正職員	42	6	26	6	2	0	2
		100.0%	14.3%	61.9%	14.3%	4.8%	0.0%	4.8%
	専業主婦(夫)、家事手伝い	1	0	1	0	0	0	0
		100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	無業者	2	1	1	0	0	0	0
		100.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

*1:令和2年4月1日時点では29歳だったが調査時点で30歳となった3名(男性2名、女性1名)含む

質問2-2 「学校教育」の場で、男女は平等に扱われていると思いますか。



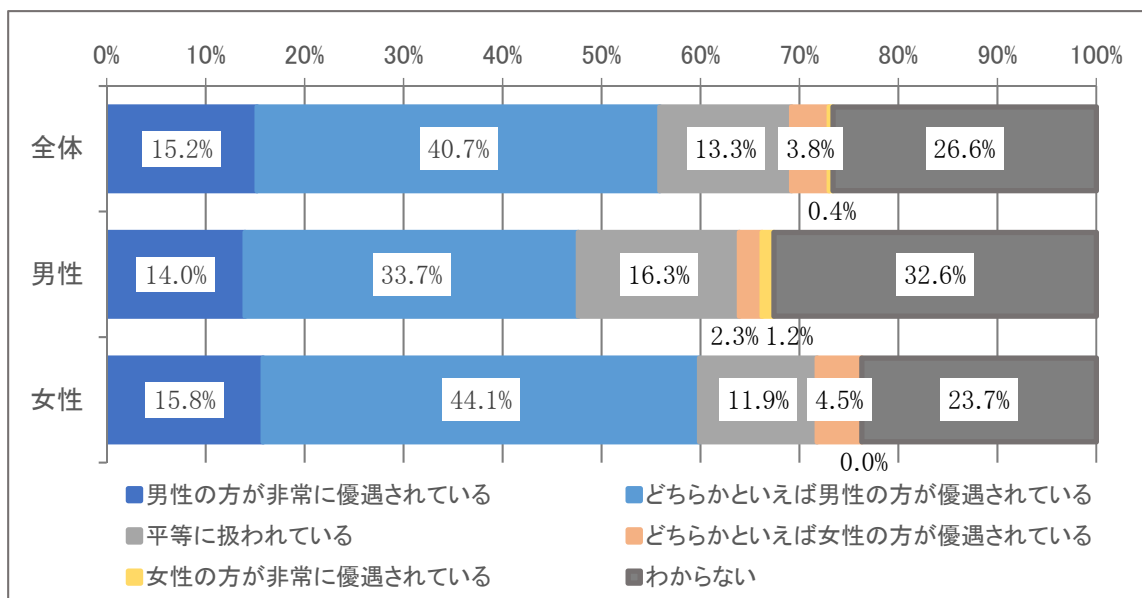
- 全体で見ると、「平等に扱われている」が47.9%で最も高く、次いで「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が20.9%だった。また、『男性の方が優遇されている』（「男性の方が非常に優遇されている」+「どちらかといえば男性の方が優遇されている」）と回答した割合は25.1%であったのに対し、『女性の方が優遇されている』（「女性の方が非常に優遇されている」+「どちらかといえば女性の方が優遇されている」）と回答した割合は20.9%だった。
- 年代別で見ると、12～19歳では『女性の方が優遇されている』と回答した割合が、『男性の方が優遇されている』に比べて10ポイント以上高いのに対して、20～30歳では『男性の方が優遇されている』のほうが20ポイント以上高くなっており、年代が上がるにつれて男性の方が優遇されていると考える割合が高くなる傾向であった。
- 男女別で見ると、男性の33.7%が『女性の方が優遇されている』と回答した一方、女性の52.5%が「平等に扱われている」と回答しており、性別による認識の差がうかがわれる結果となっている。

令和2年度 第2回青少年意見募集事業結果

上段:人数 下段:(%)		全 体	男性の方 が非常に 優遇され ている	どちらか といえ ば 男性の 方が優 遇され ている	平等に 扱われ ている	どちらか といえ ば 女性の 方が優 遇され ている	女性の方 が非常に 優遇され ている	わから ない
全体		263 100.0%	11 4.2%	55 20.9%	126 47.9%	47 17.9%	8 3.0%	16 6.1%
性別	男性	86 100.0%	4 4.7%	12 14.0%	33 38.4%	24 27.9%	5 5.8%	8 9.3%
	女性	177 100.0%	7 4.0%	43 24.3%	93 52.5%	23 13.0%	3 1.7%	8 4.5%
年齢	12～14歳	29 100.0%	0 0.0%	5 17.2%	12 41.4%	6 20.7%	3 10.3%	3 10.3%
	15～19歳	128 100.0%	5 3.9%	14 10.9%	63 49.2%	34 26.6%	3 2.3%	9 7.0%
	20～24歳	61 100.0%	5 8.2%	17 27.9%	31 50.8%	3 4.9%	1 1.6%	4 6.6%
	25～30歳(*1)	45 100.0%	1 2.2%	19 42.2%	20 44.4%	4 8.9%	1 2.2%	0 0.0%
性別× 年齢	男性12～14歳	12 100.0%	0 0.0%	1 8.3%	5 41.7%	3 25.0%	2 16.7%	1 8.3%
	男性15～19歳	42 100.0%	2 4.8%	2 4.8%	14 33.3%	18 42.9%	1 2.4%	5 11.9%
	男性20～24歳	16 100.0%	2 12.5%	3 18.8%	7 43.8%	1 6.3%	1 6.3%	2 12.5%
	男性25～30歳(*1)	16 100.0%	0 0.0%	6 37.5%	7 43.8%	2 12.5%	1 6.3%	0 0.0%
	女性12～14歳	17 100.0%	0 0.0%	4 23.5%	7 41.2%	3 17.6%	1 5.9%	2 11.8%
	女性15～19歳	86 100.0%	3 3.5%	12 14.0%	49 57.0%	16 18.6%	2 2.3%	4 4.7%
	女性20～24歳	45 100.0%	3 6.7%	14 31.1%	24 53.3%	2 4.4%	0 0.0%	2 4.4%
	女性25～30歳(*1)	29 100.0%	1 3.4%	13 44.8%	13 44.8%	2 6.9%	0 0.0%	0 0.0%
属性	中学生	33 100.0%	0 0.0%	5 15.2%	15 45.5%	7 21.2%	3 9.1%	3 9.1%
	高校生	83 100.0%	2 2.4%	6 7.2%	40 48.2%	27 32.5%	2 2.4%	6 7.2%
	専門学校・ 短大などの学生	20 100.0%	1 5.0%	5 25.0%	11 55.0%	3 15.0%	0 0.0%	0 0.0%
	大学生・大学院生	76 100.0%	6 7.9%	19 25.0%	36 47.4%	7 9.2%	3 3.9%	5 6.6%
	パート・アルバイト・ 派遣社員・契約社員	6 100.0%	0 0.0%	1 16.7%	4 66.7%	0 0.0%	0 0.0%	1 16.7%
	正社員・正職員	42 100.0%	2 4.8%	17 40.5%	19 45.2%	3 7.1%	0 0.0%	1 2.4%
	専業主婦(夫)、 家事手伝い	1 100.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	無業者	2 100.0%	0 0.0%	1 50.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%

*1:令和2年4月1日時点では29歳だったが調査時点で30歳となった3名(男性2名、女性1名)含む

質問2-3 「就職活動」の場で、男女は平等に扱われていると思いますか。



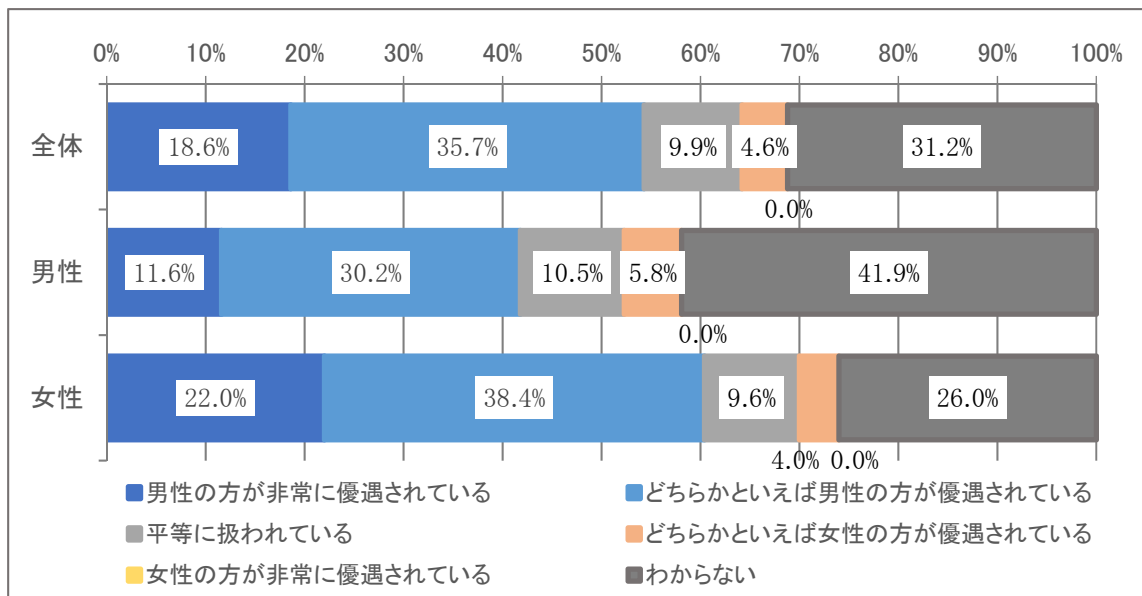
- 全体で見ると、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が40.7%で最も高く、次いで「わからない」が26.6%であった。また、『男性の方が優遇されている』（「男性の方が非常に優遇されている」＋「どちらかといえば男性の方が優遇されている」）と回答した割合は55.9%であったのに対し、『女性の方が優遇されている』（「女性の方が非常に優遇されている」＋「どちらかといえば女性の方が非常に優遇されている」）と回答した割合は4.2%にとどまった。
- 年代別で見ると、年代が上がるにつれて、『男性の方が優遇されている』と回答する割合が高くなる傾向であった。また、12～19歳については、3割超が「わからない」と回答している。
- 男女別で見ると、『男性の方が優遇されている』と回答した割合について、男性は47.7%であった一方、女性は59.9%であり、男女とも割合が高いものの、性別による認識の差がうかがわれる結果となっている。また、女性15～19歳に比べ、男性15～19歳が「わからない」と回答した割合が20ポイント以上高くなっている。
- 属性別に見ると、中学生、高校生、専門学校・短大などの学生は、3割超が「わからない」と回答している。

令和2年度 第2回青少年意見募集事業結果

上段:人数 下段:(%)		全 体	男性の方が非常に 優遇されている	どちらかとい えば 男性の 方が優遇 されている	平等に 扱われて いる	どちらかとい えば 女性の 方が優遇 されている	女性の方が非常に 優遇されて いる	わからな い
全体		263 100.0%	40 15.2%	107 40.7%	35 13.3%	10 3.8%	1 0.4%	70 26.6%
性別	男性	86 100.0%	12 14.0%	29 33.7%	14 16.3%	2 2.3%	1 1.2%	28 32.6%
	女性	177 100.0%	28 15.8%	78 44.1%	21 11.9%	8 4.5%	0 0.0%	42 23.7%
年齢	12～14歳	29 100.0%	0 0.0%	9 31.0%	3 10.3%	0 0.0%	0 0.0%	17 58.6%
	15～19歳	128 100.0%	17 13.3%	53 41.4%	15 11.7%	3 2.3%	1 0.8%	39 30.5%
	20～24歳	61 100.0%	17 27.9%	22 36.1%	9 14.8%	4 6.6%	0 0.0%	9 14.8%
	25～30歳(*1)	45 100.0%	6 13.3%	23 51.1%	8 17.8%	3 6.7%	0 0.0%	5 11.1%
性別× 年齢	男性12～14歳	12 100.0%	0 0.0%	4 33.3%	2 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	6 50.0%
	男性15～19歳	42 100.0%	3 7.1%	15 35.7%	6 14.3%	0 0.0%	1 2.4%	17 40.5%
	男性20～24歳	16 100.0%	6 37.5%	3 18.8%	3 18.8%	1 6.3%	0 0.0%	3 18.8%
	男性25～30歳(*1)	16 100.0%	3 18.8%	7 43.8%	3 18.8%	1 6.3%	0 0.0%	2 12.5%
	女性12～14歳	17 100.0%	0 0.0%	5 29.4%	1 5.9%	0 0.0%	0 0.0%	11 64.7%
	女性15～19歳	86 100.0%	14 16.3%	38 44.2%	9 10.5%	3 3.5%	0 0.0%	22 25.6%
	女性20～24歳	45 100.0%	11 24.4%	19 42.2%	6 13.3%	3 6.7%	0 0.0%	6 13.3%
	女性25～30歳(*1)	29 100.0%	3 10.3%	16 55.2%	5 17.2%	2 6.9%	0 0.0%	3 10.3%
属性	中学生	33 100.0%	0 0.0%	11 33.3%	3 9.1%	0 0.0%	0 0.0%	19 57.6%
	高校生	83 100.0%	8 9.6%	37 44.6%	9 10.8%	1 1.2%	1 1.2%	27 32.5%
	専門学校・ 短大などの学生	20 100.0%	1 5.0%	8 40.0%	4 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	7 35.0%
	大学生・大学院生	76 100.0%	23 30.3%	26 34.2%	8 10.5%	4 5.3%	0 0.0%	15 19.7%
	パート・アルバイト・ 派遣社員・契約社員	6 100.0%	1 16.7%	2 33.3%	1 16.7%	1 16.7%	0 0.0%	1 16.7%
	正社員・正職員	42 100.0%	7 16.7%	21 50.0%	9 21.4%	4 9.5%	0 0.0%	1 2.4%
	専業主婦(夫)、 家事手伝い	1 100.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	無業者	2 100.0%	0 0.0%	1 50.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%

*1:令和2年4月1日時点では29歳だったが調査時点で30歳となった3名(男性2名、女性1名)含む

質問2-4 「職場」で、男女は平等に扱われていると思いますか。



- 全体で見ると、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が35.7%で最も高く、次いで「わからない」が31.2%であった。また、『男性の方が優遇されている』（「男性の方が非常に優遇されている」+「どちらかといえば男性の方が優遇されている」）と回答した割合は54.3%であった。
- 年代別に見ると、20～24歳は65.5%が『男性の方が優遇されている』と回答しており、他の年代及び全体と比べて5ポイント以上高くなっている。また、年代が上がるにつれて、「平等に扱われている」と回答する割合が高くなる傾向であった。
- 男女別で見ると、『男性の方が優遇されている』と回答した割合について、男性は41.8%であった一方、女性は60.4%であり、性別による認識の差がうかがわれる結果となっている。

令和2年度 第2回青少年意見募集事業結果

上段:人数 下段:(%)		全 体	男性の方 が非常に 優遇され ている	どちらか といえ ば 男性の 方が優 遇され ている	平等に 扱われ ている	どちらか といえ ば 女性の 方が優 遇され ている	女性の方 が非常に 優遇され ている	わから ない
全体		263 100.0%	49 18.6%	94 35.7%	26 9.9%	12 4.6%	0 0.0%	82 31.2%
性別	男性	86 100.0%	10 11.6%	26 30.2%	9 10.5%	5 5.8%	0 0.0%	36 41.9%
	女性	177 100.0%	39 22.0%	68 38.4%	17 9.6%	7 4.0%	0 0.0%	46 26.0%
年齢	12～14歳	29 100.0%	0 0.0%	8 27.6%	1 3.4%	1 3.4%	0 0.0%	19 65.5%
	15～19歳	128 100.0%	22 17.2%	47 36.7%	10 7.8%	5 3.9%	0 0.0%	44 34.4%
	20～24歳	61 100.0%	19 31.1%	21 34.4%	6 9.8%	2 3.3%	0 0.0%	13 21.3%
	25～30歳(*1)	45 100.0%	8 17.8%	18 40.0%	9 20.0%	4 8.9%	0 0.0%	6 13.3%
性別×年齢	男性12～14歳	12 100.0%	0 0.0%	3 25.0%	0 0.0%	1 8.3%	0 0.0%	8 66.7%
	男性15～19歳	42 100.0%	3 7.1%	14 33.3%	4 9.5%	1 2.4%	0 0.0%	20 47.6%
	男性20～24歳	16 100.0%	3 18.8%	5 31.3%	2 12.5%	1 6.3%	0 0.0%	5 31.3%
	男性25～30歳(*1)	16 100.0%	4 25.0%	4 25.0%	3 18.8%	2 12.5%	0 0.0%	3 18.8%
	女性12～14歳	17 100.0%	0 0.0%	5 29.4%	1 5.9%	0 0.0%	0 0.0%	11 64.7%
	女性15～19歳	86 100.0%	19 22.1%	33 38.4%	6 7.0%	4 4.7%	0 0.0%	24 27.9%
	女性20～24歳	45 100.0%	16 35.6%	16 35.6%	4 8.9%	1 2.2%	0 0.0%	8 17.8%
	女性25～30歳(*1)	29 100.0%	4 13.8%	14 48.3%	6 20.7%	2 6.9%	0 0.0%	3 10.3%
属性	中学生	33 100.0%	0 0.0%	11 33.3%	1 3.0%	1 3.0%	0 0.0%	20 60.6%
	高校生	83 100.0%	12 14.5%	29 34.9%	7 8.4%	4 4.8%	0 0.0%	31 37.3%
	専門学校・ 短大などの学生	20 100.0%	2 10.0%	9 45.0%	3 15.0%	0 0.0%	0 0.0%	6 30.0%
	大学生・大学院生	76 100.0%	24 31.6%	23 30.3%	3 3.9%	3 3.9%	0 0.0%	23 30.3%
	パート・アルバイト・ 派遣社員・契約社員	6 100.0%	1 16.7%	3 50.0%	2 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	正社員・正職員	42 100.0%	10 23.8%	16 38.1%	10 23.8%	4 9.5%	0 0.0%	2 4.8%
	専業主婦(夫)、 家事手伝い	1 100.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	無業者	2 100.0%	0 0.0%	2 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%

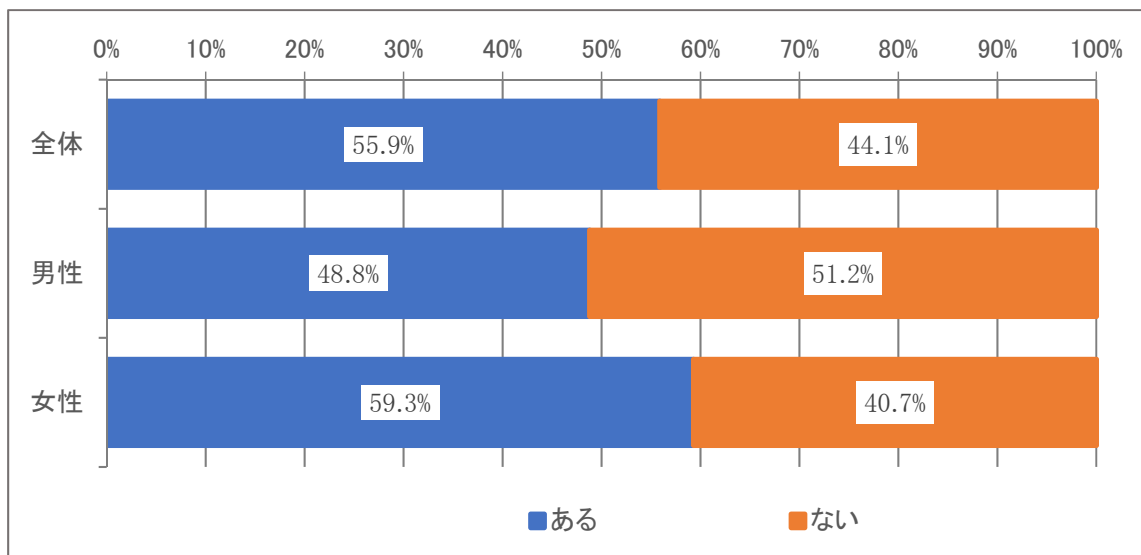
*1:令和2年4月1日時点では29歳だったが調査時点で30歳となった3名(男性2名、女性1名)含む

令和2年度 第2回青少年意見募集事業結果

《参考》4つの場面での男女平等意識

		家庭生活「親族との付き合い」の場			学校教育」の場		
		全体	男性	女性	全体	男性	女性
	(%)						
1	男性の方が非常に優遇されている	8.7%	5.8%	10.2%	4.2%	4.7%	4.0%
2	どちらかといえば男性の方が優遇されている	49.4%	44.2%	52.0%	20.9%	14.0%	24.3%
3	平等に扱われている	28.9%	33.7%	26.6%	47.9%	38.4%	52.5%
4	どちらかといえば女性の方が優遇されている	7.2%	10.5%	5.6%	17.9%	27.9%	13.0%
5	女性の方が非常に優遇されている	0.4%	0.0%	0.6%	3.0%	5.8%	1.7%
6	わからない	5.3%	5.8%	5.1%	6.1%	9.3%	4.5%
男性優遇 (1+2)		58.1%	50.0%	62.2%	25.1%	18.7%	28.3%
平等 (3)		28.9%	33.7%	26.6%	47.9%	38.4%	52.5%
女性優遇 (5+4)		7.6%	10.5%	6.2%	20.9%	33.7%	14.7%
不明 (6)		5.3%	5.8%	5.1%	6.1%	9.3%	4.5%
		就職活動」の場			職場」		
		全体	男性	女性	全体	男性	女性
	(%)						
1	男性の方が非常に優遇されている	15.2%	14.0%	15.8%	18.6%	11.6%	22.0%
2	どちらかといえば男性の方が優遇されている	40.7%	33.7%	44.1%	35.7%	30.2%	38.4%
3	平等に扱われている	13.3%	16.3%	11.9%	9.9%	10.5%	9.6%
4	どちらかといえば女性の方が優遇されている	3.8%	2.3%	4.5%	4.6%	5.8%	4.0%
5	女性の方が非常に優遇されている	0.4%	1.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
6	わからない	26.6%	32.6%	23.7%	31.2%	41.9%	26.0%
男性優遇 (1+2)		55.9%	47.7%	59.9%	54.3%	41.8%	60.4%
平等 (3)		13.3%	16.3%	11.9%	9.9%	10.5%	9.6%
女性優遇 (5+4)		4.2%	3.5%	4.5%	4.6%	5.8%	4.0%
不明 (6)		26.6%	32.6%	23.7%	31.2%	41.9%	26.0%

質問3-1 これまで、「男であるから/女であるから」という理由で不公平を感じた経験はありますか。



- 全体で見ると、55.9%が「ある」、44.1%が「ない」と回答した。
- 年代別で見ると、12～19歳で「ある」と回答した割合は5割を下回っているが、20～30歳は6割以上となっている。
- 男女別で見ると、「ある」と回答した割合について、男性は48.8%、女性は59.3%であり、女性のほうが不公平を感じた経験があることが多い傾向であった。

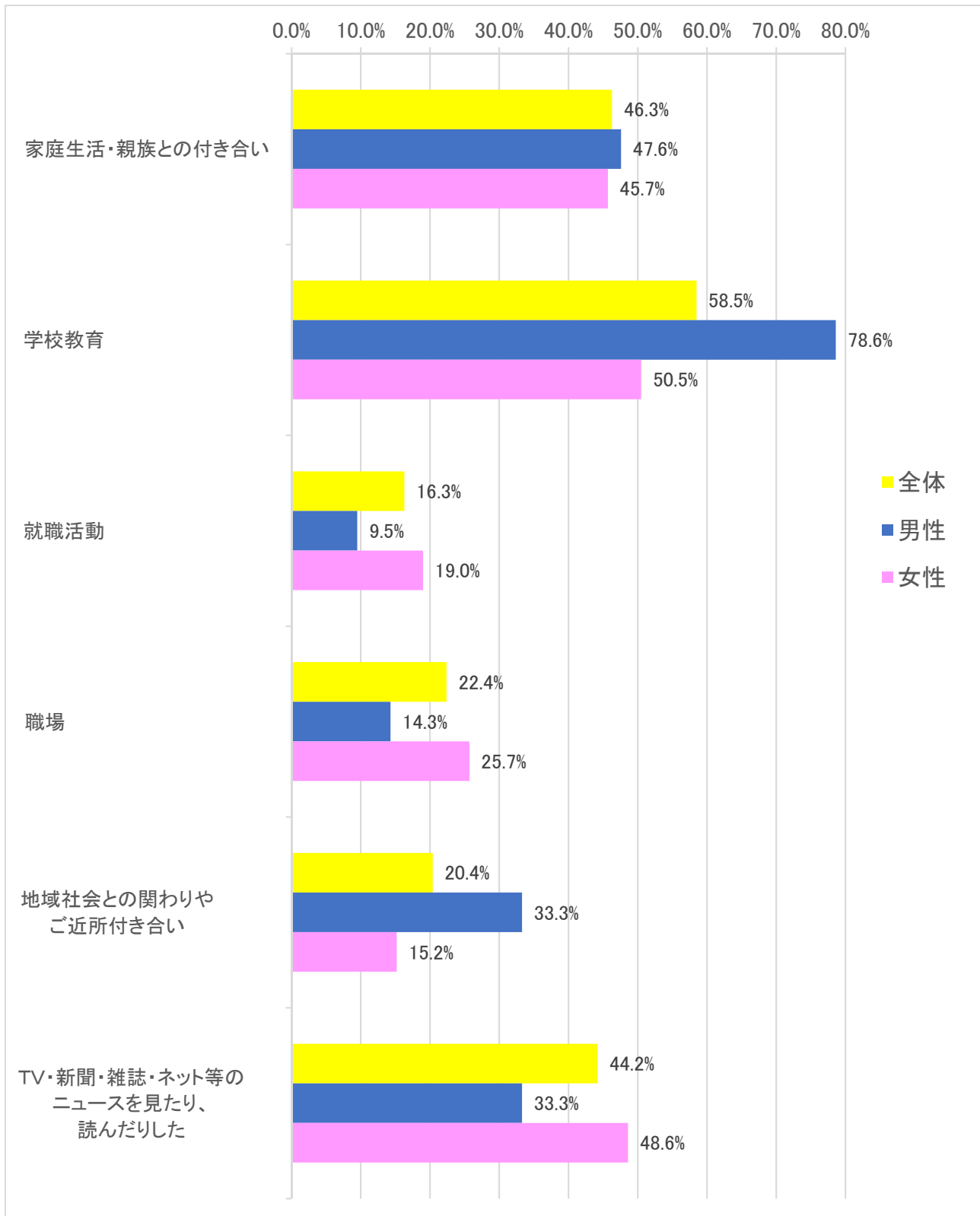
令和2年度 第2回青少年意見募集事業結果

上段:人数 下段:(%)		全 体	あ る	な い
全体		263 100.0%	147 55.9%	116 44.1%
性 別	男性	86 100.0%	42 48.8%	44 51.2%
	女性	177 100.0%	105 59.3%	72 40.7%
年 齢	12～14歳	29 100.0%	11 37.9%	18 62.1%
	15～19歳	128 100.0%	63 49.2%	65 50.8%
	20～24歳	61 100.0%	45 73.8%	16 26.2%
	25～30歳(*1)	45 100.0%	28 62.2%	17 37.8%
性 別 × 年 齢	男性12～14歳	12 100.0%	3 25.0%	9 75.0%
	男性15～19歳	42 100.0%	20 47.6%	22 52.4%
	男性20～24歳	16 100.0%	9 56.3%	7 43.8%
	男性25～30歳(*1)	16 100.0%	10 62.5%	6 37.5%
	女性12～14歳	17 100.0%	8 47.1%	9 52.9%
	女性15～19歳	86 100.0%	43 50.0%	43 50.0%
	女性20～24歳	45 100.0%	36 80.0%	9 20.0%
	女性25～30歳(*1)	29 100.0%	18 62.1%	11 37.9%
属 性	中学生	33 100.0%	12 36.4%	21 63.6%
	高校生	83 100.0%	42 50.6%	41 49.4%
	専門学校・ 短大などの学生	20 100.0%	12 60.0%	8 40.0%
	大学生・大学院生	76 100.0%	47 61.8%	29 38.2%
	パート・アルバイト・ 派遣社員・契約社員	6 100.0%	5 83.3%	1 16.7%
	正社員・正職員	42 100.0%	28 66.7%	14 33.3%
	専業主婦(夫)、 家事手伝い	1 100.0%	1 100.0%	0 0.0%
	無業者	2 100.0%	0 0.0%	2 100.0%

*1:令和2年4月1日時点では29歳だったが調査時点で30歳となった3名(男性2名、女性1名)含む

令和2年度 第2回青少年意見募集事業結果

質問3-2 (質問3-1で「ある」を選んだ方) どのような場でその経験をしましたか。
(複数回答可)



- 全体で見ると、「学校教育」が58.5%で最も高く、次いで「家庭生活・親族との付き合い」が46.3%、「TV・新聞・雑誌・ネット等のニュースを見たり、読んだりした」が44.2%の順となった。
- 男女別で見ると、男女とも「学校教育」と回答した割合が最も高かったが、男性は78.6%、女性は50.5%であり、20ポイント以上の差があった。また、「学校教育」のほか、男性では「家庭生活・親族との付き合い」(47.6%)が、女性では「TV・新聞・雑誌・ネット等のニュースを見たり、読んだりした」(48.6%)、「家庭生活・親族との付き合い」(45.7%)が、それぞれ4割を超える回答であった。
- 年代別に見ると、年代が上がるにつれて、「地域社会との関わりやご近所付き合い」が高くなる傾向であった。

令和2年度 第2回青少年意見募集事業結果

上段：人数 下段：(%) 【複数回答可】		全体	家庭生活・ 親族との 付き合い	学校教育	就職活動	職場	地域社会と の関わりや ご近所 付き合い	TV・新聞・ 雑誌・ネット 等のニュー スを見たり、 読んだりし た
全体		147 100.0%	68 46.3%	86 58.5%	24 16.3%	33 22.4%	30 20.4%	65 44.2%
性別	男性	42 100.0%	20 47.6%	33 78.6%	4 9.5%	6 14.3%	14 33.3%	14 33.3%
	女性	105 100.0%	48 45.7%	53 50.5%	20 19.0%	27 25.7%	16 15.2%	51 48.6%
年齢	12～14歳	11 100.0%	1 9.1%	10 90.9%	1 9.1%	0 0.0%	1 9.1%	3 27.3%
	15～19歳	63 100.0%	25 39.7%	45 71.4%	4 6.3%	4 6.3%	8 12.7%	25 39.7%
	20～24歳	45 100.0%	26 57.8%	18 40.0%	13 28.9%	10 22.2%	8 17.8%	25 55.6%
	25～30歳(*1)	28 100.0%	16 57.1%	13 46.4%	6 21.4%	19 67.9%	13 46.4%	12 42.9%
性別× 年齢	男性12～14歳	3 100.0%	0 0.0%	3 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	男性15～19歳	20 100.0%	6 30.0%	17 85.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 5.0%	5 25.0%
	男性20～24歳	9 100.0%	6 66.7%	7 77.8%	1 11.1%	2 22.2%	4 44.4%	5 55.6%
	男性25～30歳(*1)	10 100.0%	8 80.0%	6 60.0%	3 30.0%	4 40.0%	9 90.0%	4 40.0%
	女性12～14歳	8 100.0%	1 12.5%	7 87.5%	1 12.5%	0 0.0%	1 12.5%	3 37.5%
	女性15～19歳	43 100.0%	19 44.2%	28 65.1%	4 9.3%	4 9.3%	7 16.3%	20 46.5%
	女性20～24歳	36 100.0%	20 55.6%	11 30.6%	12 33.3%	8 22.2%	4 11.1%	20 55.6%
	女性25～30歳(*1)	18 100.0%	8 44.4%	7 38.9%	3 16.7%	15 83.3%	4 22.2%	8 44.4%
属性	中学生	12 100.0%	1 8.3%	11 91.7%	1 8.3%	0 0.0%	1 8.3%	3 25.0%
	高校生	42 100.0%	14 33.3%	31 73.8%	0 0.0%	1 2.4%	3 7.1%	14 33.3%
	専門学校・ 短大などの学生	12 100.0%	7 58.3%	4 33.3%	0 0.0%	3 25.0%	2 16.7%	8 66.7%
	大学生・大学院生	47 100.0%	26 55.3%	27 57.4%	16 34.0%	7 14.9%	13 27.7%	27 57.4%
	パート・アルバイト・ 派遣社員・契約社員	5 100.0%	2 40.0%	0 0.0%	1 20.0%	4 80.0%	2 40.0%	4 80.0%
	正社員・正職員	28 100.0%	18 64.3%	13 46.4%	6 21.4%	17 60.7%	9 32.1%	9 32.1%
	専業主婦(夫)、 家事手伝い	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%
	無業者	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%

*1: 令和2年4月1日時点では29歳だったが調査時点で30歳となった3名(男性2名、女性1名)含む

※: 複数回答可(回答数306)

質問3-3 (質問3-1で「ある」を選んだ方) 前問で選んだ経験について、具体的に教えてください。(自由記述)

○ 自由記述回答を質問3-2の選択肢を基に分類した。

《男性からの意見》

■ 家庭生活・親族との付き合い

- ・親戚の家で親族が集まって食事をした際に、私は料理を作るのが好きなので台所で作業を手伝おうとしたら親戚から「あんたは男なんじゃけん手伝わんでいい」と言われた。(男性/17歳/高校生)
- ・原因は忘れたが、小学生のころ女の子と喧嘩したら男の私が一方的に怒られた記憶がある。(男性/22歳/正社員・正職員)
- ・男の子だから泣いてはダメ、スポーツはするべきなどの固定観念の押し付け。女の子を泣かせてはいけないなどの、ある意味男女差別とも取れる教育的指導。(男性/22歳/大学生・大学院生)
- ・「男だから力を持ってるだろう」「女はか弱いもの」といったような発言。(男性/26歳/正社員・正職員)
- ・配偶者から、「男なのだから」と言われることがあった。(男性/28歳/正社員・正職員)

■ 学校教育

- ・女子生徒には更衣室が設けられているのに、男子生徒にはない。(男性/13歳/中学生)
- ・授業中に叱られる時に男子と女子の扱われ方に違いがありすぎる。特に、男性教師は女の子に甘い。(男性/14歳/中学生)
- ・学校で決め事をする時に「男なんだから我慢しろ」と、男性の意見よりも女性の意見を尊重するという流れができていない。(男性/16歳/高校生)
- ・女子がやっても怒られないことを男子がすると怒られた。(男性/16歳/高校生)
- ・自分が苦手なことも男子だから我慢できるという理由で無理やりやらされた。(男性/16歳/高校生)
- ・学校教育では、クラスで問題があった際、大抵男子に責任を押し付ければ済むと思っている先生が多いと思う。あと、特に感じるのは女子生徒に対する発言でよくないとされているものが、男子生徒に対してはいいだろうと先生が思っているであろうケースで、去年までの体育担当だった先生は実際に「男子はくさい」とか「男子だからできるでしょ」といった差別的発言が多かった。性の多様化が進む中で、田舎などの学校教育ではまだまだ性差別が多いと思う。中学時代には体育前の着替えは男子はみんなが通る廊下、女子は教室や更衣室などといったケースもあった。(男性/18歳/高校生)
- ・小学生の時に同級生と喧嘩した際、男同士なら殴り合いしても両方怒られたけど、女子と喧嘩して相手に蹴られたり叩かれたりしても、先生に「男の子が女の子に暴力するのはダメ」と言われ、「じゃあ女子が男子に暴力するのはいいんですか？」と聞くと、「男の子なら我慢なさい。」などのことを言われ、明らかにおかしいと思いました。一般社会では女性差別が残っているとされていますが、最近は明らかに女尊男卑の方が多いと思います。レディファーストやレディースデーはその象徴です。飲食店で偶に見かける女性割りきもおかしいと思います。テレビでは、男性から女性へのセクハラじみた発言

令和2年度 第2回青少年意見募集事業結果

があれば当然批判されています。しかし、女性から男性へのセクハラじみた発言は、男性側が喜んでい
るなどと勝手に解釈されて見過ごされていると思います。これにも疑問を持っています。(男性/18歳/
高校生)

- ・男だから運動できないとというような話を学校の体育で言われた(男性/18歳/大学生・大学院生)
- ・大学においては男女比に偏りがあり男性が多い。一方の女性は高学歴を良いものと思わない親族など
からの偏見もあり、受験そのものに向き合う環境そのものが整備されていないと感じる意見を当事者
から聞いた。実際自分もその意見に納得し、問題について共感している。(男性/18歳/大学生・大学院
生)
- ・男子なんだから、力があって同然。弱音を吐いてはいけない。と教え込まれたこと。(男性/22歳/大学
生・大学院生)
- ・女子の多い共学校で、高いところに登って行う作業などは、男子が行うことになっていた。(男性/28歳
/正社員・正職員)

■職場

- ・「男だから男らしくいなさい」という教育が根本にあった。仕事の面でも女性の方が叱責される場面が
少ないと思う。(男性/27歳/正社員・正職員)
- ・職場で上司からお前は男だから昇進できる可能性がある。もっと頑張れと言われた。(男性/25歳/正社
員・正職員)

■地域社会との関わりやご近所付き合い

- ・男性であるから就くべき職業はこういうものだ、というような言説や、男性が主夫業を行うことへの論
拠に乏しい否定的な向きの意見を伺ったことがあります。(男性/26歳/大学生・大学院生)
- ・発言の権限や力、立場が過去の男性社会を引きずっているように感じる。行政や議員を見ても同様だ。
(男性/30歳/正社員・正職員)

■TV・新聞・雑誌・ネット等のニュースを見たり、読んだりした

- ・性別なんて選ぶことができないのに、性別で格差が生まれてしまうことなんてあってはいけないと思
いました。男尊女卑という言葉が存在していますが、一刻も早くこの言葉がなくなることを願います。
(男性/16歳/高校生)
- ・男女平等論ですら、女性の男性化を求めている(男性/21歳/大学生・大学院生)

《女性からの意見》

■家庭生活・親族との付き合い

- ・親族の集まりで食事の準備中、お酒を飲んでいる男性の親戚に「女なんだから手伝え」と言われた。(女性/16歳/高校生)
- ・母を見ていると、父や父の姉妹がいるのに、父の実家の面倒を見させられていると思う。また、お正月など親戚が集まる機会では、女性ばかりが働き、男性は食べたり飲んだりしているだけで働こうとしないのは、おかしいと感じる。(女性/17歳/高校生)
- ・「女の子だから手伝いしなさい」とよく言われた。(女性/17歳/高校生)
- ・結婚して子供を産むのが当たり前というニュアンスで将来のビジョンを語られた。(女性/18歳/高校生)
- ・祖母が弟に「将来あなたは家を継ぐのよ」と言う。祖母は孫全員を大切に扱ってくれている。しかし、弟の将来のことにに関してだけは他の孫と違う扱いになる。姉からすると弟の将来が決められているようで窮屈そうに思える。(女性/18歳/高校生)
- ・墓参りは全員で行くけど墓掃除は女の仕事、と言われたことなど。(女性/18歳/専門学校・短大などの学生)
- ・私は女性であり、親族から、女性は結婚後も働けるよという理由で安定した職についたり資格を取ったりするのを勧められることがあった。(女性/18歳/大学生・大学院生)
- ・親の中に「女の子だから勉強をそこまで頑張らなくてよい」という概念があり、私の勉学の道に進みたい意思を汲み取ってもらうのに時間がかかった。(女性/19歳/専門学校・短大などの学生)
- ・女性は家庭に入らなければならないという考え方。家事、育児は女性の仕事であるという考え方。(女性/20歳/専門学校・短大などの学生)
- ・進路を選ぶ際、女は将来の結婚や育児を考えた上で絶対に国家資格の取れる学部に行けと親に言われた。(女性/21歳/大学生・大学院生)
- ・女性はどうしても将来、結婚して子育てしてなどの仕事の一時中断(キャリア的に不利)ができる。また、配偶者との間などに問題がおきて、配偶者に頼らず1人もしくは子供を連れて生きていかなければならなくなったときに、結婚、出産によるキャリア中断の不利益を引きずらずに社会に復帰することができる仕事(資格)を選べと言われ続けた。そもそもそのような考えがないと未来に希望を持ってない社会はどうかと思う。(女性/21歳/大学生・大学院生)
- ・女性だからという理由で一方的な家事の負担を強いられたり、夫が転勤をする際に女性が仕事を辞めてついていくべきだという考えや、女性だからと事務仕事のような単調な仕事に就かせる風潮。(女性/23歳/正社員・正職員)
- ・女の子だから丁寧に、綺麗にいたってはならない。女の子だから家事をしなくてはならない。このような文節に対してその理由付けが性別である点に疑問を持った。(女性/23歳/正社員・正職員)
- ・パートナーとの結婚を考えたとき、パートナー側の両親が仕事は家事や家のことができる範囲で仕事してほしいと思っていそう。少なくとも、女性の私がパートナーより仕事を優先するとは考えてすらいない。(女性/24歳/大学生・大学院生)
- ・母親が仕事から帰って夕食を作る間に父親はお風呂に入り、お酒を飲む。(女性/25歳/パート・アルバイト・派遣社員・契約社員)

令和2年度 第2回青少年意見募集事業結果

- ・育児について日本は女性の負担が大きい気がするから。(女性/18歳/専門学校・短大などの学生)

■学校教育

- ・委員会活動では、「男子委員が正委員で、女子が副委員」だと決められている。(女性/13歳/中学生)
- ・学校で怒られる時、女子は優しくめだけど男子は少し当たりが強い気がする。(女性/14歳/中学生)
- ・大学入試などでどうしても理系の女子は不利に気がします。(女性/16歳/高校生)
- ・私の学校では生徒会長は男子が務めることが多いが、選挙に出たところ友達から「生徒会長は男子のイメージがある」と言われて少し傷ついた。男子2人と女子1人(私)が立候補して結果私が当選したが、周りがこの結果をどう思っているのかが気になる。(女性/16歳/高校生)
- ・野球が好きで、野球部に入ろうと思った時期があったが、野球部に入っても女子は試合に出ることができず、基本的にマネージャーの扱いだ、みたいなことを言われた。また、「女子なのに」のような言葉をかけられることもあったり、親もいい顔をしなかったりしたので、諦めた。(女性/16歳/高校生)
- ・顧問の先生で60歳くらいの方が「女は子供産むだけだ」と大声で言っていた。(女性/17歳/高校生)
- ・進学先を選択する際、周囲の大人から「女の子がそんなに学力の高い大学に行く必要はない」「お嫁に行きにくい高飛車な女になるからやめなさい」などと第一志望に進学することを反対された。自分の成功体験に対し、男性から「女のくせに」と言われた。(女性/18歳/大学生・大学院生)
- ・中学校で生徒会長に立候補しようとしたら同じクラスの男の子を会長に、わたしを副会長にしようとした。(女性/21歳/大学生・大学院生)
- ・大学院生なのだが、大学院受験時に面接を担当した教授から「女性は研究者には向かない。自分の娘ならば絶対に大学院進学をさせない」という話をされた。入学後この教授の授業で、女性出席者は学問的指導が後回しになるなど不利な立場に置かれた。また性的な話題を振られるセクシュアルハラスメントを受け、大学に相談するに至った。(女性/23歳/大学生・大学院生)

■就職活動

- ・女子は要らない/厳しいといわれた。女性だけ顔採用。(女性/20歳/大学生・大学院生)
- ・会社の採用人数の内訳が明らかに男女で異なっていた。周囲の大人から「〇〇職は女子に向いていない」と言われた。(女性/20歳/大学生・大学院生)
- ・就職活動マニュアルには、女は3センチほどのハイヒールを履かなければいけないことや、スカートを履くこと、またメイクも必須である主旨のことが書かれているが、それらの根拠が分からないので、不愉快であった。(女性/21歳/大学生・大学院生)
- ・就職活動において、総合職を希望していたが、面接の中で女性なのだから一般職での採用はどうか？と聞かれた経験があります。女性、男性関係なく、能力は個人によって変わってきてます。それにも関わらず、個人の能力や適正ではなく”女性だから”という理由で職のコースを提案され、非常につかりしました。(女性/22歳/大学生・大学院生)
- ・就職活動の際、海外勤務のできる職場を探していたところ、海外勤務できるとアピールしていても、実際赴任している人の多くは男性であると、OB訪問の際に聞くことが多かった。(女性/26歳/正社員・正職員)

■職場

- ・私が高校1年生で、初めてアルバイトをした時に男女の差別を感じたことがあります。ホームセンターのアルバイトだったのですが、裏の在庫出しの仕事を募集していたので応募をして面接に行ったら、「女子だからレジかな。その方が華やかなイメージがでるし」と言われました。その時に、自分がやりたい仕事は違うし、女性は職場を飾る為の道具でもないのにと、とても違和感を覚えました。また、女性は弱くて力がないからレジなどの簡単な作業しかできないという意識を持っている人がいることに驚きました。(女性/20歳/専門学校・短大などの学生)
- ・就職した女性が、結婚・出産や育児を理由に会社を辞めた場合、復帰できにくくなったり、復帰できたとしても時短勤務などに文句を言われたりして肩身の狭い思いをしているというニュースの特集を見た事があります。また、私の知り合いも、10年以上勤めた職場で同期の男性と同じかそれ以上の働きをしているのに、育児があるため昇進に壁があり、同期の男性だけどんどん昇進していくことに不満を述べていました。育児休暇や産休など制度が整ってきた企業もありますが、それらが使えなくては意味がありません。本人が後ろめたく思わずにそのような制度を活用するためには職場の理解や労働環境の改善、周りの人々の支援が必要になると私は思います。(女性/20歳/専門学校・短大などの学生)
- ・強い印象として残ってるのは、某所で窓口業務の仕事に就いていた時、女性職員の制服がタイトスカートしかなかったことです。パンツ(ズボン)スタイルの採用がなく、事前に調べておくべきではあったものの、希望すら受け付けてもらえず、「女性はスカートが決まりだから。」と。それなのに、業務の中では月に一度、自転車に乗って外回りなどがあり、仕方ないと言い聞かせ、恥ずかしい思いをして仕事をしました。また、歩きづらい場面も多くあり、効率が悪いと感じてました。なんの為の決まりなのか、今でもわかりません。(女性/21歳/正社員・正職員)
- ・女性の執行役員や上級の役職が少ない。(女性/25歳/正社員・正職員)
- ・今の職場では、会議や決裁の場で男性が優位に立っている。女性の意見はなかなか通らず苦勞する。(女性/25歳/正社員・正職員)
- ・同じ年次、職歴でも男性社員の方が研修に行ける機会が多い。結婚したらすぐに辞めちゃうでしょ？と言われた。女が大学なんて生意気と言われた。(女性/25歳/正社員・正職員)
- ・基本的にプロジェクトなど責任をもとめられることは男性に決定権がある場面に何度も遭遇した。会社で何かしようとしても男性の意見が優遇されやすい。(女性/26歳/正社員・正職員)
- ・職場で来客があった際、お茶を出すのが、女性の仕事だとされていた。(女性/26歳/正社員・正職員)
- ・どれだけ昇進しても、夫の転勤などで一度仕事を辞めると復帰できない。妻の転勤についてくる夫はいないのに。(女性/26歳/正社員・正職員)
- ・女だからという理由で軽んじられていたり、後回しされていたりすることはあるが、同時に男だからという理由で重い責任を負わされているところもあるように感じる。(女性/26歳/正社員・正職員)
- ・妊娠を機に来年度の雇用が打ち切られたこと。(女性/28歳/専業主婦(夫)、家事手伝い)

■地域社会との関わりやご近所付き合い

- ・自分の好きな服装や化粧をしていたら、もっと女の子らしくしなさい、下品だと言われることが多くなった。(女性/17歳/高校生)
- ・「女に出来るわけないだろ」と言われたことがある。(女性/18歳/大学生・大学院生)
- ・祖父母が男尊女卑的な考え方で女性は三步下がってだとか、長男が優先でというようなことを言われたことがある。学校でも大きな係のリーダーは男と決まっていって不服に思ったことがある。ニュースで産休などを取ったら居場所が無くなったとか、産休や育休も自分で嫌がられても言っていかないと夜勤に普通に入れられたり、休みにして貰えないと言っていた。(女性/20歳/専門学校・短大などの学生)
- ・地域の行事は女性が食事を作ったり、お酒を注いだりすることが当たり前になっている。(女性/25歳/パート・アルバイト・派遣社員・契約社員)

■TV・新聞・雑誌・ネット等のニュースを見たり、読んだりした

- ・私大医学部の大学入試で男子のみに加点されていた、というニュースを聞いて、憤りを覚えました。要項に明記せずに性別だけを理由に加点・減点をするなんて、大学の裁量で済ませられる範囲を超えています。また、病人を助ける為に土俵に上がった女性の医療関係者に対する批判の声も、筋違いだと思います。無事だったから言いたい放題なのかもしれませんが、助ける手段を持っているのに「女性だから」と見過ごし、それでもし亡くなっていたら…その方の家族はもちろん、救命を躊躇った女性の心にも深い傷を残したでしょう。会場アナウンスで「下りてください」と呼びかけるのは、係の使命を果たしただけで何の問題もないと思います。ですが、よく知りもしないでSNSなどで批判の書き込みをするのは、間違っています。(女性/16歳/高校生)
- ・女性が仕事をしていて、妊娠・育児などで休みを取ったりしなければならなくなった場合、その後の復帰が難しいというニュースを見た。育児に関して、日本は、女性がやるべきものという概念から離れられていないのだと考える。男性は仕事、女性は家事の暗黙のルールのようなものを排除し、法律のような形だけのものではなく、本当の平等を築ける場所になってほしい。(女性/18歳/高校生)
- ・男性の方が給料がいい、昇進しやすいなどのニュースを見た(女性/19歳/大学生・大学院生)
- ・育児休暇を取ったり、体調の悪い子どものために休みを取るのは母親、という雰囲気未だにある。医者など体力のいる仕事についての女性は肩身の狭い思いをする、ということを知ったことがある(女性/20歳/大学生・大学院生)
- ・テレビや雑誌、ニュースなどのメディアでよくみかける”女子力”などの言葉や、芸能人などの”かわいい”が”細くて、白い”などと限定、固定化されることで、女性はこうではなくてはいけない、というような固定観念を与えられているように感じます。テレビにおいても色々な個性を見かけた時は、女性、男性だからと性別に囚われていないと感じます。ニュースで見かけたものだと、女性がプールで男の人に盗撮されると犯罪となるが、ゲイの男性が他の男性を盗撮した場合は、笑い話として新聞に載っており、差を感じました。(女性/22歳/大学生・大学院生)
- ・そもそも日本社会はあまりにも男尊女卑が染み付きすぎていて自分の中でそれが当たり前の概念として存在している。問題意識を感じることも少なかった。女性が家事をするのもそうだし、子育てでも女性がするのが当たり前という概念そのものが古臭いことに気づけるような社会ではない。また、自分

令和2年度 第2回青少年意見募集事業結果

が最も憤りを覚えたのは医学部入試で女性をわざと減らしていたこと。バカにされていると感じた。

(女性/21歳/大学生・大学院生)

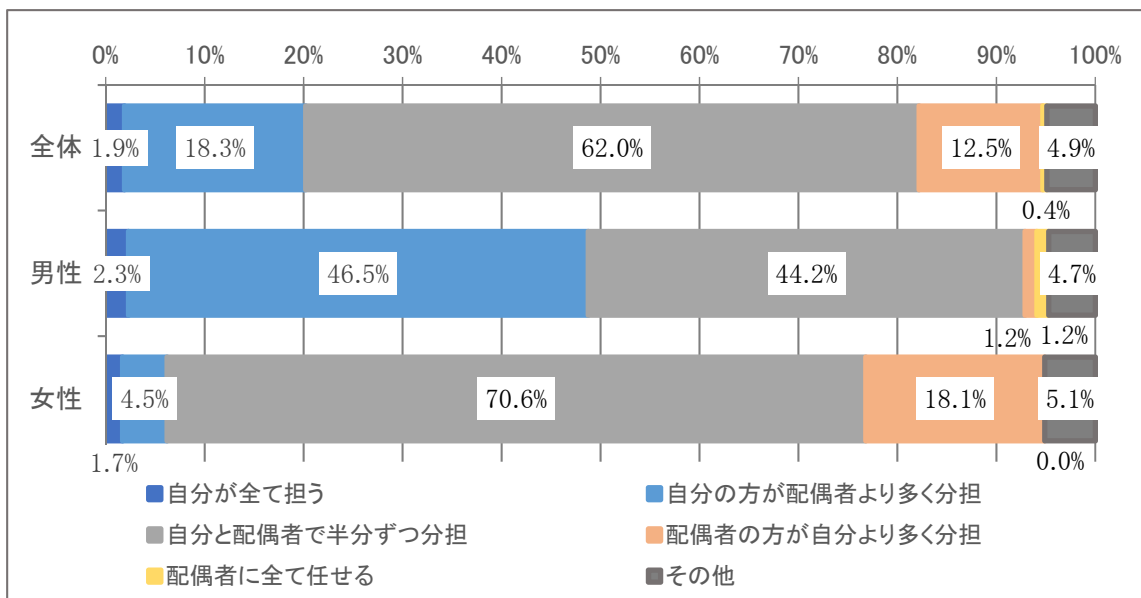
- ・会社では社長などの偉い人や政治家などが男性の方が多くこと。(女性/22歳/大学生・大学院生)
- ・社会的な立場(内申書等)を理由に悪質な言動による嫌がらせ、侮辱行為が行われている実態。(女性/22歳/大学生・大学院生)

■その他

- ・結婚した夫婦が名字を選ぶ際、女性が男性の名字にするのが主流である考え方。(女性/22歳/大学生・大学院生)

令和2年度 第2回青少年意見募集事業結果

質問4-1 将来家庭をもつとしたら、家計を支える（収入を得る）役割の分担をどうしていきたいと思いませんか。（※現在家庭をもっている方は、希望についてお答えください。）



- 全体で見ると、「自分と配偶者で半分ずつ分担」が62.0%で最も高かった。
- 男女別で見ると、『自分の方が配偶者より多く分担』（「自分が全て担う」＋「自分の方が配偶者より多く分担」）と回答した割合については、男性は48.8%で、女性は6.3%であった。また、「自分と配偶者で半分ずつ分担」と回答した割合については、男性は44.2%であった一方、女性は70.6%であった。

令和2年度 第2回青少年意見募集事業結果

上段:人数 下段:(%)		全 体	自分が全 て担う	自分の方 が配偶者 より多く分 担	自分と配 偶者で半 分ずつ分 担	配偶者の 方が自分 より多く分 担	配偶者に 全て任せ る	その他
全体		263 100.0%	5 1.9%	48 18.3%	163 62.0%	33 12.5%	1 0.4%	13 4.9%
性別	男性	86 100.0%	2 2.3%	40 46.5%	38 44.2%	1 1.2%	1 1.2%	4 4.7%
	女性	177 100.0%	3 1.7%	8 4.5%	125 70.6%	32 18.1%	0 0.0%	9 5.1%
年齢	12～14歳	29 100.0%	1 3.4%	5 17.2%	20 69.0%	2 6.9%	0 0.0%	1 3.4%
	15～19歳	128 100.0%	0 0.0%	30 23.4%	72 56.3%	19 14.8%	1 0.8%	6 4.7%
	20～24歳	61 100.0%	1 1.6%	7 11.5%	44 72.1%	7 11.5%	0 0.0%	2 3.3%
	25～30歳(*1)	45 100.0%	3 6.7%	6 13.3%	27 60.0%	5 11.1%	0 0.0%	4 8.9%
性別×年齢	男性12～14歳	12 100.0%	1 8.3%	4 33.3%	6 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 8.3%
	男性15～19歳	42 100.0%	0 0.0%	25 59.5%	13 31.0%	1 2.4%	1 2.4%	2 4.8%
	男性20～24歳	16 100.0%	0 0.0%	5 31.3%	11 68.8%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	男性25～30歳(*1)	16 100.0%	1 6.3%	6 37.5%	8 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 6.3%
	女性12～14歳	17 100.0%	0 0.0%	1 5.9%	14 82.4%	2 11.8%	0 0.0%	0 0.0%
	女性15～19歳	86 100.0%	0 0.0%	5 5.8%	59 68.6%	18 20.9%	0 0.0%	4 4.7%
	女性20～24歳	45 100.0%	1 2.2%	2 4.4%	33 73.3%	7 15.6%	0 0.0%	2 4.4%
	女性25～30歳(*1)	29 100.0%	2 6.9%	0 0.0%	19 65.5%	5 17.2%	0 0.0%	3 10.3%
属性	中学生	33 100.0%	1 3.0%	6 18.2%	21 63.6%	4 12.1%	0 0.0%	1 3.0%
	高校生	83 100.0%	0 0.0%	18 21.7%	47 56.6%	13 15.7%	1 1.2%	4 4.8%
	専門学校・ 短大などの学生	20 100.0%	0 0.0%	2 10.0%	14 70.0%	3 15.0%	0 0.0%	1 5.0%
	大学生・大学院生	76 100.0%	0 0.0%	16 21.1%	50 65.8%	7 9.2%	0 0.0%	3 3.9%
	パート・アルバイト・ 派遣社員・契約社員	6 100.0%	1 16.7%	0 0.0%	4 66.7%	0 0.0%	0 0.0%	1 16.7%
	正社員・正職員	42 100.0%	3 7.1%	6 14.3%	25 59.5%	5 11.9%	0 0.0%	3 7.1%
	専業主婦(夫)、 家事手伝い	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%
	無業者	2 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%

*1:令和2年4月1日時点では29歳だったが調査時点で30歳となった3名(男性2名、女性1名)含む

質問4-2 (質問4-1で「その他」を選んだ方) 具体的に教えてください。(自由記述)

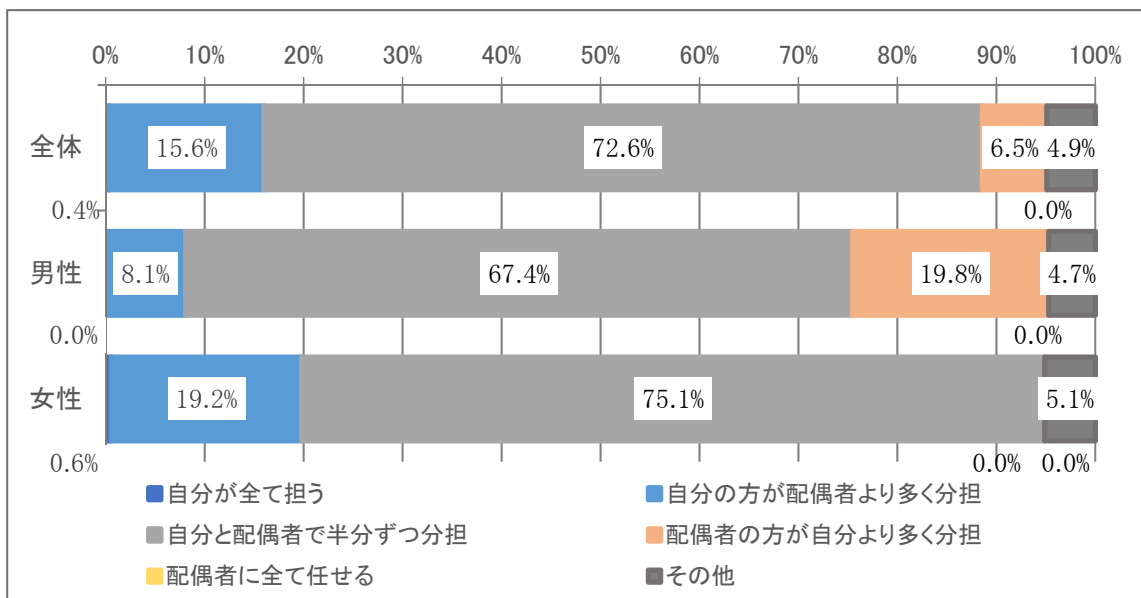
《男性からの意見》

- ・仕事は自分がやりたい事をやったりするものなのでどちらの収入が多いなどはそこまで気にしていない。(男性/13歳/中学生)
- ・人それぞれの個性を尊重すべきだという考え方です。家庭に入りたい女性も男性もいる。ケースバイケースです。(男性/17歳/高校生)
- ・相談して決める。(男性/19歳/大学生・大学院生)
- ・単に折半は実際的に難しいので、出せるものが出せるだけ話し合いの上、やり繰りすればいい。(男性/29歳/正社員・正職員)

《女性からの意見》

- ・まず、互いが互いの収入額を知ること。そして、生活に必要な支出額とこれからのための貯金額を、それぞれの収入から同じ割合の額を出すようにする。(女性/16歳/高校生)
- ・男女だからといって職種も違えば収入も違うので、それぞれの収入額によってその割合は変化する、変化されるべきだと思う。(女性/16歳/高校生)
- ・収入に占める生活費の負担を揃えたい。(女性/16歳/高校生)
- ・お互いの収入の比率に合わせて負担率を決めれば良いと思う。(女性/18歳/専門学校・短大などの学生)
- ・理想は半分ずつだが、その配偶者に選ぶ人との関係や希望があると思うので話し合いで決める。どうしていききたいというより、相手によるのでその他にチェックをしました。(女性/22歳/大学生・大学院生)
- ・パートナーとの話し合いで決めたいから どちらがどうとは一概に言えない 個々でいろんなケースがあつていいと思う。(女性/24歳/パート・アルバイト・派遣社員・契約社員)
- ・自分の趣味などに使うお金であれば、自分が担うが、今の日本社会では、男女で給料の差が出る(男性の方が給料が高い)ことが多いうえ、家庭を持つ=子どももいるのだとしたら、育児を担いながら自分が家計のすべてを担うことや、ほとんどを担うことは、かなり難しい。もちろん、社会や会社の理解があれば別である。しかし、シングルマザーがいい例だと思うが、育児家事の負担もある上に、仕事の負担も大きくなるのであれば、それはストレスにしかならない。まだまだ女性が妊娠・出産することに対する保障や制度が充実していないところも多く、企業によっては、上司の判断や采配によって、良くなったり悪くなったりがある。女性の負担は大きいのに、女性に対する保障や制度が充実していないのも問題であるため、もっと充実させるべきだと思う。ただ、すべてを任せるのは申し訳ない感じがするため、少しは助力出来たら良いが、家計を主に支えていくのは、配偶者に任せたい。(女性/25歳/正社員・正職員)
- ・その時収入が多い方が少し多く払うように調整する。(女性/27歳/大学生・大学院生)
- ・お互いの収入など経済状況による。(女性/28歳/正社員・正職員)

質問5-1 将来家庭をもつとしたら、家事分担をどうしていきたいと思いますか。
 (※現在家庭をもっている方は、希望についてお答えください。)



- 全体で見ると、「自分と配偶者で半分ずつ分担」が72.6%で最も高かった。
- 男女別で見ると、「自分と配偶者で半分ずつ分担」と回答した割合については、男性は67.4%、女性は75.1%であった。
- 年代別で見ると、年代が上がるにつれて、「自分の方が配偶者より多く分担」と回答した割合が高くなる傾向があった。

令和2年度 第2回青少年意見募集事業結果

上段:人数 下段:(%)		全 体	自分が全 て担う	自分の方 が配偶者 より多く分 担	自分と配 偶者で半 分ずつ分 担	配偶者の 方が自分 より多く分 担	配偶者に 全て任せ る	その他
全体		263 100.0%	1 0.4%	41 15.6%	191 72.6%	17 6.5%	0 0.0%	13 4.9%
性別	男性	86 100.0%	0 0.0%	7 8.1%	58 67.4%	17 19.8%	0 0.0%	4 4.7%
	女性	177 100.0%	1 0.6%	34 19.2%	133 75.1%	0 0.0%	0 0.0%	9 5.1%
年齢	12～14歳	29 100.0%	0 0.0%	6 20.7%	17 58.6%	3 10.3%	0 0.0%	3 10.3%
	15～19歳	128 100.0%	1 0.8%	22 17.2%	91 71.1%	10 7.8%	0 0.0%	4 3.1%
	20～24歳	61 100.0%	0 0.0%	8 13.1%	50 82.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 4.9%
	25～30歳(*1)	45 100.0%	0 0.0%	5 11.1%	33 73.3%	4 8.9%	0 0.0%	3 6.7%
性別× 年齢	男性12～14歳	12 100.0%	0 0.0%	1 8.3%	7 58.3%	3 25.0%	0 0.0%	1 8.3%
	男性15～19歳	42 100.0%	0 0.0%	4 9.5%	27 64.3%	10 23.8%	0 0.0%	1 2.4%
	男性20～24歳	16 100.0%	0 0.0%	2 12.5%	13 81.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 6.3%
	男性25～30歳(*1)	16 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	11 68.8%	4 25.0%	0 0.0%	1 6.3%
	女性12～14歳	17 100.0%	0 0.0%	5 29.4%	10 58.8%	0 0.0%	0 0.0%	2 11.8%
	女性15～19歳	86 100.0%	1 1.2%	18 20.9%	64 74.4%	0 0.0%	0 0.0%	3 3.5%
	女性20～24歳	45 100.0%	0 0.0%	6 13.3%	37 82.2%	0 0.0%	0 0.0%	2 4.4%
	女性25～30歳(*1)	29 100.0%	0 0.0%	5 17.2%	22 75.9%	0 0.0%	0 0.0%	2 6.9%
属性	中学生	33 100.0%	0 0.0%	7 21.2%	20 60.6%	3 9.1%	0 0.0%	3 9.1%
	高校生	83 100.0%	0 0.0%	13 15.7%	61 73.5%	7 8.4%	0 0.0%	2 2.4%
	専門学校・ 短大などの学生	20 100.0%	0 0.0%	3 15.0%	16 80.0%	1 5.0%	0 0.0%	0 0.0%
	大学生・大学院生	76 100.0%	1 1.3%	11 14.5%	56 73.7%	3 3.9%	0 0.0%	5 6.6%
	パート・アルバイト・ 派遣社員・契約社員	6 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	5 83.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 16.7%
	正社員・正職員	42 100.0%	0 0.0%	6 14.3%	31 73.8%	3 7.1%	0 0.0%	2 4.8%
	専業主婦(夫)、 家事手伝い	1 100.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	無業者	2 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%

*1:令和2年4月1日時点では29歳だったが調査時点で30歳となった3名(男性2名、女性1名)含む

質問5-2 (質問5-1で「その他」を選んだ方) 具体的に教えてください。(自由記述)

《男性からの意見》

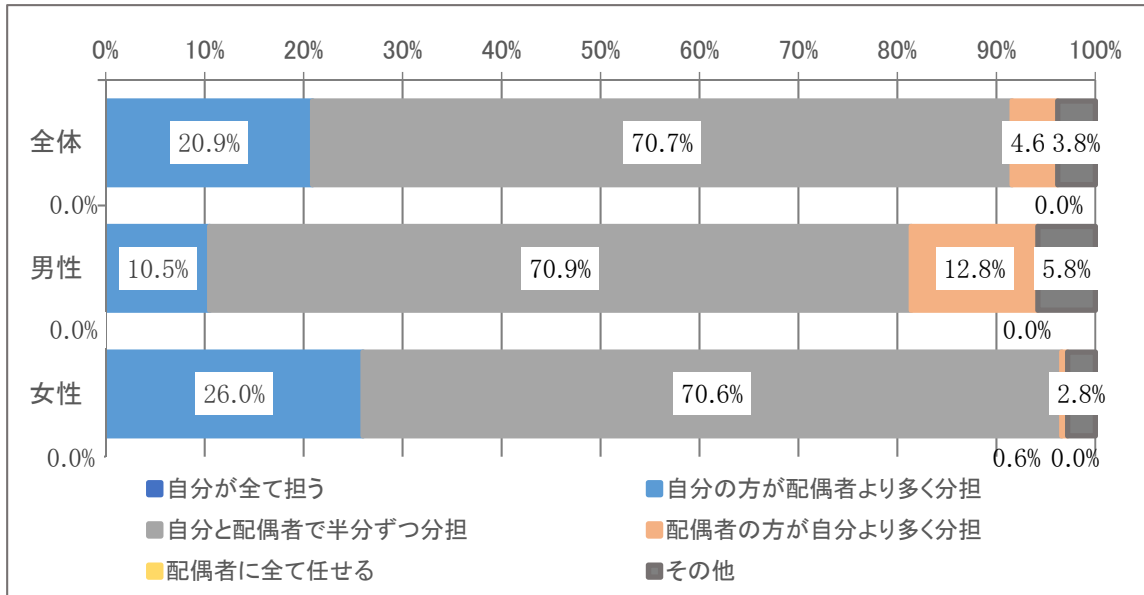
- ・一緒に考えて家事の種類によって分担する。(男性/13歳/中学生)
- ・相談して決める。(男性/19歳/大学生・大学院生)
- ・必要に応じて、お互いに行う。(男性/22歳/大学生・大学院生)
- ・これも上記に同じで、職業等のバランスを考えて、話し合いのもと、決めればいい。(男性/29歳/正社員・正職員)

《女性からの意見》

- ・どっちがやるとかではなく、お互い気付いたときにやる方がお互いを思いやる気持ちが生まれると思う。(女性/14歳/中学生)
- ・片方が全てや半分ずつではなく、2人の忙しさに応じて決める。(女性/14歳/中学生)
- ・職種や業務時間も異なるので、空いている時間にやるべき家事を臨機応変に行っていきたい。(女性/16歳/高校生)
- ・お互い余裕のある時は率先して行うようにする(女性/16歳/高校生)
- ・仕事の負担が少ない方が家事を多めに分担(女性/19歳/大学生・大学院生)
- ・お互いが出来ることをやった結果、実際にどうなるかわからないのでその他にチェックしました。お互いに出来ることをしたらいいと思います。(女性/22歳/大学生・大学院生)
- ・得意不得意があるのでこれもパートナーと決める(女性/24歳/パート・アルバイト・派遣社員・契約社員)
- ・お互い、比較的苦ではない家事を分担して行う。(女性/27歳/大学生・大学院生)
- ・それぞれが得意な家事をやる。それで家事が回らないなら、外注する。(女性/29歳/正社員・正職員)

令和2年度 第2回青少年意見募集事業結果

質問6-1 将来家庭をもつとしたら、子育ての分担をどうしていきたいと思いますか。
 (※現在家庭をもっている方は、希望についてお答えください。)



- 全体で見ると「自分と配偶者で半分ずつ分担」が70.7%で最も高かった。
- 男女別で見ると、「自分と配偶者で半分ずつ分担」と回答した割合について、男性は70.9%、女性は70.6%でありほぼ同水準であった。

令和2年度 第2回青少年意見募集事業結果

上段:人数 下段:(%)		全 体	自分が全 て担う	自分の方 が配偶者 より多く分 担	自分と配 偶者で半 分ずつ分 担	配偶者の 方が自分 より多く分 担	配偶者に 全て任せ る	その他
全体		263 100.0%	0 0.0%	55 20.9%	186 70.7%	12 4.6%	0 0.0%	10 3.8%
性別	男性	86 100.0%	0 0.0%	9 10.5%	61 70.9%	11 12.8%	0 0.0%	5 5.8%
	女性	177 100.0%	0 0.0%	46 26.0%	125 70.6%	1 0.6%	0 0.0%	5 2.8%
年齢	12～14歳	29 100.0%	0 0.0%	7 24.1%	17 58.6%	4 13.8%	0 0.0%	1 3.4%
	15～19歳	128 100.0%	0 0.0%	34 26.6%	86 67.2%	4 3.1%	0 0.0%	4 3.1%
	20～24歳	61 100.0%	0 0.0%	6 9.8%	52 85.2%	0 0.0%	0 0.0%	3 4.9%
	25～30歳(*1)	45 100.0%	0 0.0%	8 17.8%	31 68.9%	4 8.9%	0 0.0%	2 4.4%
性別× 年齢	男性12～14歳	12 100.0%	0 0.0%	1 8.3%	6 50.0%	4 33.3%	0 0.0%	1 8.3%
	男性15～19歳	42 100.0%	0 0.0%	6 14.3%	31 73.8%	3 7.1%	0 0.0%	2 4.8%
	男性20～24歳	16 100.0%	0 0.0%	2 12.5%	13 81.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 6.3%
	男性25～30歳(*1)	16 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	11 68.8%	4 25.0%	0 0.0%	1 6.3%
	女性12～14歳	17 100.0%	0 0.0%	6 35.3%	11 64.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	女性15～19歳	86 100.0%	0 0.0%	28 32.6%	55 64.0%	1 1.2%	0 0.0%	2 2.3%
	女性20～24歳	45 100.0%	0 0.0%	4 8.9%	39 86.7%	0 0.0%	0 0.0%	2 4.4%
	女性25～30歳(*1)	29 100.0%	0 0.0%	8 27.6%	20 69.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 3.4%
属性	中学生	33 100.0%	0 0.0%	8 24.2%	20 60.6%	4 12.1%	0 0.0%	1 3.0%
	高校生	83 100.0%	0 0.0%	23 27.7%	56 67.5%	2 2.4%	0 0.0%	2 2.4%
	専門学校・ 短大などの学生	20 100.0%	0 0.0%	3 15.0%	17 85.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	大学生・大学院生	76 100.0%	0 0.0%	12 15.8%	57 75.0%	3 3.9%	0 0.0%	4 5.3%
	パート・アルバイト・ 派遣社員・契約社員	6 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	5 83.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 16.7%
	正社員・正職員	42 100.0%	0 0.0%	8 19.0%	29 69.0%	3 7.1%	0 0.0%	2 4.8%
	専業主婦(夫)、 家事手伝い	1 100.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	無業者	2 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%

*1:令和2年4月1日時点では29歳だったが調査時点で30歳となった3名(男性2名、女性1名)含む

質問6-2 (質問6-1で「その他」を選んだ方) 具体的に教えてください。(自由記述)

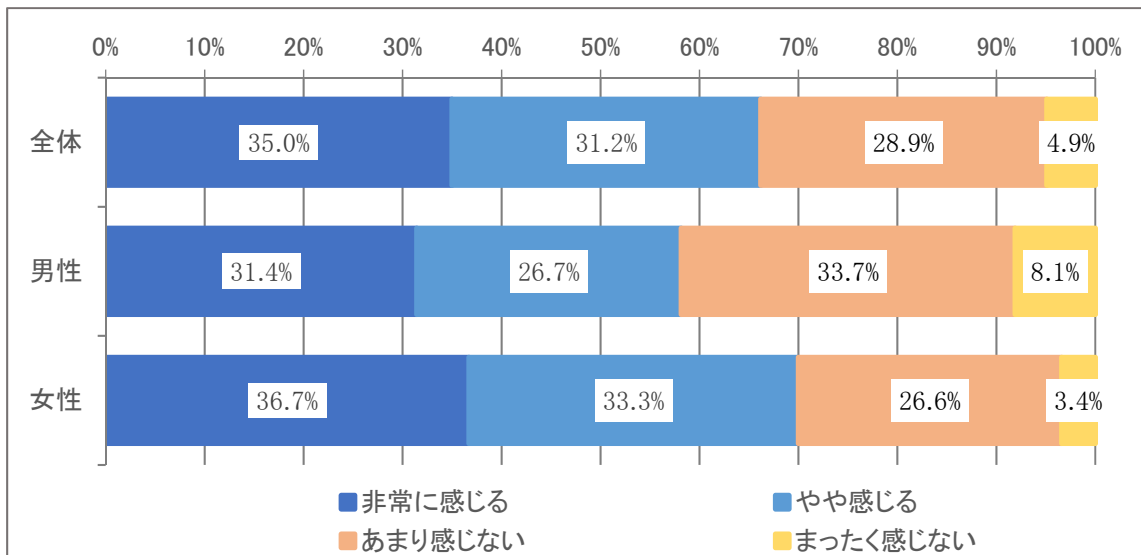
《男性からの意見》

- ・一緒に考えて物によって分担する。(男性/13歳/中学生)
- ・相談して決める。(男性/19歳/大学生・大学院生)
- ・必要に応じて、お互いに行く。(男性/22歳/大学生・大学院生)
- ・これも同じ、話し合いの末、どちらかがすべて負うこともあるかもしれないが、前提となる性別役割分業の規範やプレッシャーがない状態で決定するなら、それでいい。ただ、子育てはこどものためにも、両者(性別が同じでも)が関わるのがいい。(男性/29歳/正社員・正職員)

《女性からの意見》

- ・子どもがいる以上男女平等の社会参画は根本的に成立しないと思う。(女性/18歳/高校生)
- ・子育ての分担をどうするかという質問が出ることで自体が差別的だと感じる。子供を持ちたくない。(女性/18歳/大学生・大学院生)
- ・自分と相手の状況によって違うのでわかりません。(女性/22歳/大学生・大学院生)
- ・お当番のように初めから決めてうまくいくこともあれば不満が出ることもある。その時の状況で家族で決める。(女性/24歳/パート・アルバイト・派遣社員・契約社員)
- ・できる人がやる。できないならベビーシッター等を頼む。(女性/29歳/正社員・正職員)

質問7-1 あなたと、上の世代の人との間で男女平等への考え方にギャップを感じることはありますか。



- 全体で見ると、「非常に感じる」が35.0%で最も高く、次いで「やや感じる」が31.2%であり、両者あわせると66.2%であった。
- 男女別で見ると、『感じる』（「非常に感じる」＋「やや感じる」）と回答した割合は、男性が58.1%で、女性は70.0%であり、女性のほうがギャップを感じている傾向が強い結果であった。

令和2年度 第2回青少年意見募集事業結果

上段:人数 下段:(%)		全 体	非常に 感じる	やや 感じる	あまり 感じない	まったく 感じない
全体		263	92	82	76	13
		100.0%	35.0%	31.2%	28.9%	4.9%
性別	男性	86	27	23	29	7
		100.0%	31.4%	26.7%	33.7%	8.1%
	女性	177	65	59	47	6
		100.0%	36.7%	33.3%	26.6%	3.4%
年齢	12～14歳	29	2	10	12	5
		100.0%	6.9%	34.5%	41.4%	17.2%
	15～19歳	128	40	36	47	5
		100.0%	31.3%	28.1%	36.7%	3.9%
	20～24歳	61	29	24	8	0
		100.0%	47.5%	39.3%	13.1%	0.0%
	25～30歳(*1)	45	21	12	9	3
		100.0%	46.7%	26.7%	20.0%	6.7%
性別× 年齢	男性12～14歳	12	0	3	7	2
		100.0%	0.0%	25.0%	58.3%	16.7%
	男性15～19歳	42	11	8	20	3
		100.0%	26.2%	19.0%	47.6%	7.1%
	男性20～24歳	16	7	8	1	0
		100.0%	43.8%	50.0%	6.3%	0.0%
	男性25～30歳(*1)	16	9	4	1	2
		100.0%	56.3%	25.0%	6.3%	12.5%
女性12～14歳	17	2	7	5	3	
	100.0%	11.8%	41.2%	29.4%	17.6%	
女性15～19歳	86	29	28	27	2	
	100.0%	33.7%	32.6%	31.4%	2.3%	
女性20～24歳	45	22	16	7	0	
	100.0%	48.9%	35.6%	15.6%	0.0%	
女性25～30歳(*1)	29	12	8	8	1	
	100.0%	41.4%	27.6%	27.6%	3.4%	
属性	中学生	33	2	13	13	5
		100.0%	6.1%	39.4%	39.4%	15.2%
	高校生	83	23	22	34	4
		100.0%	27.7%	26.5%	41.0%	4.8%
	専門学校・ 短大などの学生	20	7	7	5	1
		100.0%	35.0%	35.0%	25.0%	5.0%
	大学生・大学院生	76	36	23	16	1
		100.0%	47.4%	30.3%	21.1%	1.3%
パート・アルバイト・ 派遣社員・契約社員	6	1	4	0	1	
	100.0%	16.7%	66.7%	0.0%	16.7%	
正社員・正職員	42	21	13	7	1	
	100.0%	50.0%	31.0%	16.7%	2.4%	
専業主婦(夫)、 家事手伝い	1	1	0	0	0	
	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
無業者	2	1	0	1	0	
	100.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	

*1:令和2年4月1日時点では29歳だったが調査時点で30歳となった3名(男性2名、女性1名)含む

質問7-2 (質問7-1で「非常に感じる」、「やや感じる」を選んだ方)

それはどんなことについてですか。具体的に教えてください。(自由記述)

《男性からの意見》

- ・男性が優遇されることが多いかなと思う。議員など、国を動かす役職に女性が参画している場面が少ないと思う。(男性/13歳/中学生)
- ・リーダーなどになる人は年齢が高い人だと男の人、若い人だと男の人も女の人もいるというイメージがあるから。(男性/13歳/中学生)
- ・自分自身は経験がないが、育休などで男性が育休を取ることを拒む風潮が残っていると聞いて、年上の方々は男女平等の意識が低いと思ったから。(男性/16歳/高校生)
- ・男女それぞれがあるべき姿やるべき事できることが変わってきた。昔は男は寡黙であることが良しとされ、力仕事を全て賄い、いわば父一強であった。女は常に上品であり、家事子育て全般をし、男を支える役割であった。しかし今は積極的かつ社交的な男女が求められ、家事子育ても2人で助け合うのが当たり前の認識になってきた(男性/16歳/高校生)
- ・例:女性は家庭で家事をすべき、男は仕事。私はどっちが家事をし、仕事をするかは各々で同じ負担になるようにすべき。(男性/17歳/高校生)
- ・母は、女だから、と虐げられて育ってきた。発言が軽視されたり、女のくせに、と言われることもあったらしい。よく母から女性だから虐げられたのだという話を聞く。母は下女という表現をよく使う。下女だから、～と言われた、という風に。下女という言葉がまだ残っているところに日本の男女格差の名残を感じる。だが一方で行きすぎた女性尊重に遭遇したこともある。昔小学校では、女は力が弱いだからこれを運べ、これを持って、といった発言をする人がいた。これは平等ではない。レディーファーストという言葉が男性の人権を奪うことに繋がりがねないとも危惧している。男女格差に関わらない部分で、社会的に生きづらさを感じている女性が、男女格差にかこつけてストレスを発散しているような感覚を受ける場合がある。均衡を保てないのならば、今度は男性劣等の社会になる。日本古来の考え方は女性差別を助長していた。だが現在は性別による格差を是正する社会の大きな流れがある。そのなかで、人権を侵害されている男性もいる。(男性/17歳/高校生)
- ・祖父が従姉妹に対して勉強できなくてもいいから嫁入りのために料理を練習しろと言っていたとき。(男性/18歳/大学生・大学院生)
- ・親戚の集まりで長男が家を継ぐべきなどの古い考えが昔の世代にある。(男性/18歳/大学生・大学院生)
- ・職場などで女性は家に入って家の仕事をするべきや、子供ができたときの女性に対する制度が整っていないなどをよく聞くことがある。(男性/18歳/高校生)
- ・上下関係のある部活に所属していましたが、理不尽な命令はなかったと記憶しています。ただ、たまに上から来る方もいますが、これは年齢的な差ではなく個人の、環境による差だと考えます(男性/20歳/大学生・大学院生)
- ・日本の家制度の名残は根深く、特に祖父母の世代にはそうした意識を強く感じる。男が外で稼いで、女は家事や育児をする。日本の典型的な家庭の形を是とする考え方に触れると、時代が違うんだなぁと感

令和2年度 第2回青少年意見募集事業結果

- じる。(男性/22歳/大学生・大学院生)
- ・親世代は、男性が働くという意識が強く、家事などは女性という言葉をよく見聞きする。(男性/22歳/大学生・大学院生)
 - ・以前母と母の結婚について話したとき、「結婚を機に仕事を辞め、専業主婦になった。当時は共働きなんて考えたこともなく、今でも信じられない」と過去の話がされたことがある。私はこの話から、男女の役割分担意識にズレがあったのではないかと感じた。どうやら母の話を見ると、「仕事を続けるべきだ」という価値観ではなく、「働き続けるよりも結婚を機に、家庭を優先すべきだ」という価値観を強く持っていたようだ。当時の時代背景には、もしかしたら仕事か家庭のどちらかを選ばざるを得なかったの难道うかと疑問が浮かんだ。時代が変化するにつれて、生活環境も大きく変わりつつあるのではないか。私たち世代では、以前よりもっと自由に働き方や生き方を選択できる時代へと移り変わっていると感じる。「夫は仕事、妻は家庭」といった性別的役割意識も同様に、時代の移り変わりとともにその境界線は徐々になくなりつつあると思った。しかし、完全になくなったわけではなく、今でも根強く上の世代の人の中には、このような考えを持っている人も当然いるだろう。育った時代や環境によって、性別的役割意識には大きなギャップが存在した。(男性/22歳/正社員・正職員)
 - ・いわゆる「旦那を立てる」文化や職場によって産休育休の取りやすさが全く違ってくるのが上の世代の男女平等を考える上で浮かぶ話題となる。高齢になるほど亭主関白思想がまだまだ強く、男性の下に女性が嫁ぐといった考え方が浸透しているために、男女の見方が違うことは十分に考えられる。また、産休育休については、女性は産休で長期で休むことに対する嫌がらせなどが発生している事例や、男性は育休を取りづらいという現状がある。男は働く、女は家事や育児をするといった固定観念が非常に強く、男女ともに産休育休を取りづらい現場が多く残っていると考え。海外では家事育児仕事は全て夫婦で調整することができている国もある中で日本の状況は長時間労働かつ低賃金であることも加わり、ゆとりを持って男女がフラットに働ける職場も少ないと考える。(男性/23歳/大学生・大学院生)
 - ・自分の親くらいの人と話すときに、女性なのに頑張っているや女の子だからこうした方がよい、など性別に根拠を置いた発言を耳にする。(男性/26歳/大学生・大学院生)
 - ・男性は外で働き、女性は家庭を守るものだ、という考えが残る一方、現状では共働き世帯は増えております。にもかかわらず、男性は働いているというただ一点のみをもって、同じようにフルタイムで働く女性に対し家事労働の全てを押し付ける行為や、未熟な家事の手伝いに対する指摘に逆上するなど、男性側の甘えが見えます。(男性/26歳/大学生・大学院生)
 - ・上の世代の方は、私の世代よりも、女性に補助的な仕事を期待しているように感じる。(男性/28歳/正社員・正職員)

《女性からの意見》

- ・年配の大人は男が偉いと勘違いして、女性を見下すような言動や態度がある。また、大人の女性はそれに従いすぎていると思う。(女性/14歳/中学生)
- ・年齢層が高い人は、「家事と育児は、女が行う」と思っている人が多いから。(女性/14歳/中学生)
- ・世代が上になればなるほど、女性はしっかりと家庭を守るという意識があると思う。適齢期に結婚をすることもそうだと思う。(女性/15歳/中学生)
- ・私たちの世代では、学校教育の「教育」に関してはほぼ男女の差はないように感じる。しかし、先生や親の話の伺うと、女子と男子での教育面での格差があったと聞き、自分たちとは違うと感じる。(女は勉強しなくても家庭のことが出来ればいい、という考え方など)(女性/16歳/高校生)
- ・「女の子なんだから〇〇の方がいいんじゃない？」や、「男の子なんだから〇〇じゃない」という発言を耳にすること。(女性/16歳/高校生)
- ・年配の方が、女性は家庭に入るべきという概念が深く根付いているように感じます。(女性/16歳/高校生)
- ・女性の働き方について、高齢の男性から意見を押し付けられたり、女性の方が多く育児をするべきであるという意見を同年代の男性から聞いたりした。また、反対に男らしさを押し付けられている場面もあった。(女性/16歳/高校生)
- ・私はまだ学生なので直接は感じませんが、「職場で上司に、お茶汲みや掃除は女性の仕事と言われた」等の記事を読んだ事があるので、やはり年配の方程、女性蔑視の風潮が強いのではないのでしょうか。(女性/16歳/高校生)
- ・祖父母を見ていて、また両親を見ていて思います。何か取って欲しいとき等に少し祖母、母に対して態度が大きいことに違和感を感じます。人に頼む態度としては気持ちの良いものではないと感じます。(女性/17歳/高校生)
- ・特にテレビでバラエティ番組や、国会の様子を見ている時、所謂セクハラと言われる発言を平気でしていたり、言葉にはしていなくとも、女性が問題を起こすと、やはり女は駄目だ、という雰囲気を感じているのを感じます。国の代表として率先して手本を見せていかねばならない立場の人達が、古い考え方に囚われていると感じ、不快感を感じています。(女性/17歳/高校生)
- ・上の世代のおじさんたちは、家で家事を全部担ってくれる妻がいるため、家事育児の心配をせず仕事だけをしていればよかった。現代は全く事情が変わっているのに、相変わらず男女の性別役割分担意識が強い。子育てへの理解がない上司がいる職場では、部下の男女とも産休や育休がとりづらく、ますます少子化が進むことになる。(女性/17歳/高校生)
- ・やっぱり今の60、70歳の男性は女性はだらしがないとか、子供を産むだけだなど決めつけている人が多い。(女性/17歳/高校生)
- ・本当は平等に扱われないといけないはずなのに、女性だから家事をしないといけない(家事の練習含め)とか、女性だから家のことを知っておかなくてはならないなど。男性が家事をしてもいいと思うし、親戚付き合い含め男性が家のこと知っていてもいいと思うのに、祖父母や両親にはこの考えが伝わらない(女性/17歳/高校生)
- ・「女性は男性より勇気がない」や、「男性に歯向かう気持ちが足りないんだ」と男性の顧問の先生が言っ

令和2年度 第2回青少年意見募集事業結果

- ていた。(女性/17歳/高校生)
- ・看護師のことを看護婦と言ったり、保育士を保母と言ったりすること。(女性/17歳/高校生)
 - ・亭主関白を認める傾向が昔の人にはあると思う。(女性/18歳/高校生)
 - ・女子は家のことを、男子は稼いでくるという固定概念。(女性/18歳/専門学校・短大などの学生)
 - ・「女の子なんだから高校なんて行かなくていいのよ！結婚して養ってもらえばいいの」と祖母や叔母に言われ驚いた。(女性/18歳/専門学校・短大などの学生)
 - ・お母さんは仕事から帰ってきてでも家事をするのが当たり前という環境だから。(女性/18歳/高校生)
 - ・家庭に対する男女の役割に関して、男性は働いて家計を支え、女性は子育てや家事をするという二分化の固定観念を持っているように感じる場面が多い。(女性/18歳/大学生・大学院生)
 - ・昔の家族のカーストの中では、一家の主人として、男性が1番上にいるのは当たり前とされてきた文化がいまだに残っている気がする。責任を持ってきているのはすごくありがたいし、頼りになる。しかし、女性だと頼りにならない、信頼できないような、性別で決められるのはどうかと思う。私は、学校で生徒会や、実行委員などを務めていた。1番上の立場になる人はやはり男子が多かった。別にそれだけに対して、反対というわけではないのだが、まだ、その人の人柄や熱意などを聞いていないのに、女子だからという理由で落としてしまっているのではないのかと考える。悪気があるのではないのかもしれないが、今までの考え方が離れられないままになってしまっていて、無意識に差別してしまっているのではないだろうか。(女性/18歳/高校生)
 - ・やはり女性は結婚するものだという見方が強いと感じる。女性の社会参画(仕事など)は一般的になってきたように思うが、「結婚したら」だったり「子供を産んだら」だったりといった全ての女性が経験するわけではないライフイベントを、上の世代の人は勝手に仮定していると感じる。(女性/18歳/大学生・大学院生)
 - ・私の親戚の集まりでは、女性が料理を用意して、食器を出し入れするのに対して、男性は飲み食いをするだけです。それを当たり前のように感じている方が多いと思います。(女性/19歳/大学生・大学院生)
 - ・上の世代は、男女差別へのアンテナが低く、差別に気づかない。また、「自分らの時代はこれが普通だった」と押し付けてくる。(女性/19歳/大学生・大学院生)
 - ・私は結婚するからと言って幸せになるものだとは思っておらず、仕事を選ぶのか、結婚や子供をえらぶのか、両立を頑張るのか、どれが幸せと感じるかは人それぞれだと思っているが、女は結婚して子供を産むのが幸せだと言っている人もいるから。私の家族は父親も結構家事を手伝っていることもあるし、主夫という言葉があるように、女が家事を負担しなければならないというような感覚はなかったが、中には今でも女性は結婚したら専業主婦になって家の事を全てやるべきだという感覚を持っている方がまだいるから。(女性/19歳/大学生・大学院生)
 - ・昔の「男性は仕事、女性は家事」の考え方が抜けてないところ。女性だから家事が出来て当たり前だと思っているところ。(女性/19歳/専門学校・短大などの学生)
 - ・男性が育児休暇を取りにくい環境、女性が働きにくい環境、女性が地位の高い位につく事が難しい。
(女性/19歳/大学生・大学院生)
 - ・バイト先で、年配の方から、女の子はそういう重いものは持ちやダメ、とか、その仕事は汚いから男の子に任せなさい、とか、女の子は可愛らしくいなきゃダメというようなことをよく言われます。同世代の中では男子だから、女子だから、という考え方はしないのですが、年配の方には女子なんだからと

令和2年度 第2回青少年意見募集事業結果

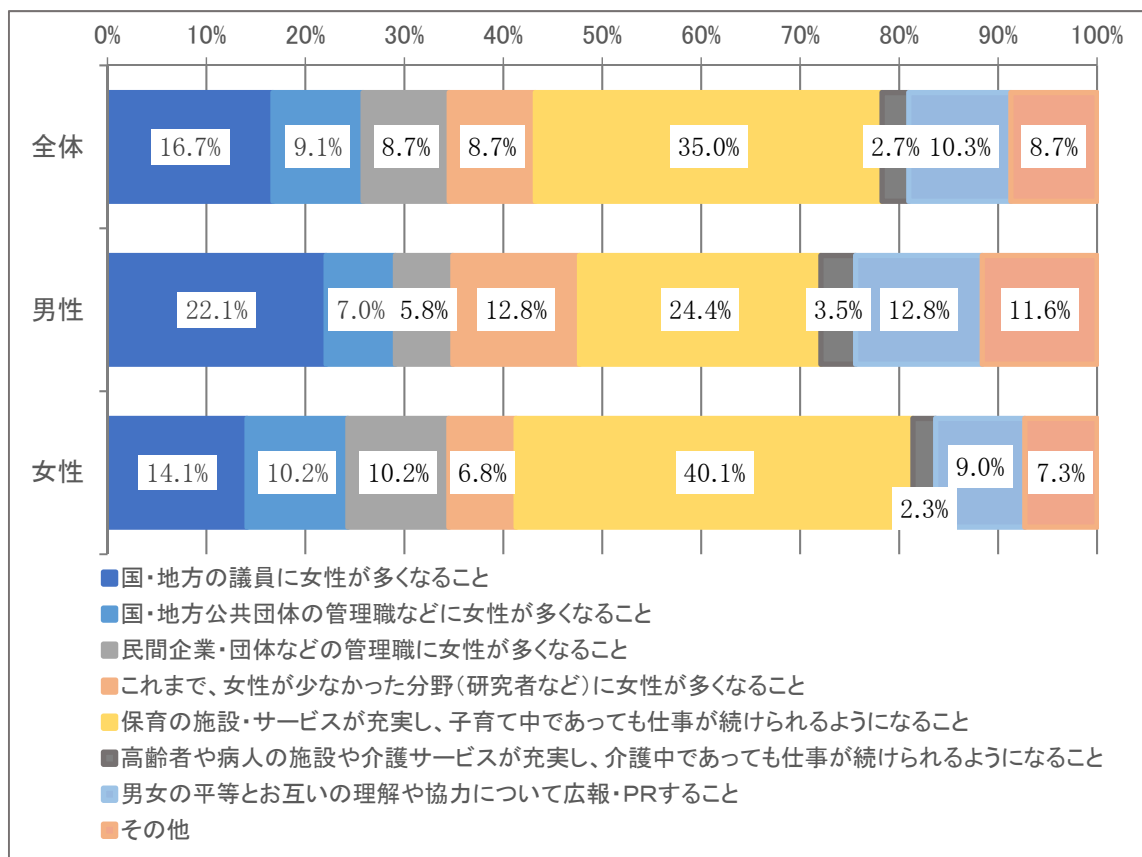
- よく言われます。(女性/19歳/大学生・大学院生)
- ・友人や現在30～50代の知り合いから、同じかそれ以上に頑張っている、大黒柱になるから等の理由で男性の方が優遇されて給料が上がったり昇格したという話を聞いているからです。ご高齢の方に受験や大学の話、就職についての話をした際に「女は早く結婚して子供産んで家事育児してればいいんだ。」「女に頭や勉強なんて要らない、ただ扱いが面倒になるだけだ。」と幼稚園生の頃からよく聞いていたからです。(女性/19歳/専門学校・短大などの学生)
 - ・私たちの親世代は男女雇用機会均等法が施行された頃に社会人になった人が多く、依然として男性中心の職場で勤務していたと考える。このことから、当時当たり前とされていた「男性は仕事、女性は家庭」という価値観を今も持っている大人は多いと推測する。実際に私の母親も職場ではお茶汲みやデータ入力などの軽作業をすることが多く、結婚後は「寿退社」をし専業主婦として今まで過ごしてきた。そのような人生・価値観を否定はしないが、それを若い世代に押し付け男女差別を再生産してしまうのはよくないと考える。人々が性別に関わらず自分の望むような働き方・家庭との関わり方ができるような社会が望ましいと思う。(女性/20歳/大学生・大学院生)
 - ・自分たちより世代が上の人は、『男だから』『女なのに』といった言葉を戸惑いなく使う場面が非常に多く感じます。きっと、職場での労働環境や、家庭での役割分担など、古くからの日本の社会的な伝統のようなものが染み付いているのかと思います。ですがそのような偏見に苦しんだり、平等に扱われないことに対して不満を持つ若者は多いので、発言は注意した方がいいと思いました。(女性/20歳/専門学校・短大などの学生)
 - ・家庭内の家事、育児は、母が行っていて、女性は男を立てるという考え方があること。(女性/20歳/専門学校・短大などの学生)
 - ・家庭のあり方のスタンダードな考え方(女性は育児と家事、男性は仕事)や、男女平等＝女性が働くことということのみにピックアップして、女性が家事＋育児＋仕事になっていることな気づいていない人を多く見かける。(女性/21歳/正社員・正職員)
 - ・就職していい人のところに嫁にいけばいいよと祖父母に言われたとき(女性/21歳/大学生・大学院生)
 - ・男尊女卑や亭主関白の考え方をしてている人が多い。私の親(50代)もそうだ。特に家事のことで顕著に現れる。(女性/21歳/大学生・大学院生)
 - ・上の世代の人たちは、何かと「女だから」や「男らしく」のような言葉を使い、個々人々の個性よりも性別へのこだわりが強いように感じる。(女性/21歳/大学生・大学院生)
 - ・母親はやはり男性をたててという考え方なので。母親も働いているけどやっぱり給与は男性が多いというのが一般的だと思う。(女性/21歳/大学生・大学院生)
 - ・性別へのこだわりやステレオタイプが、年代が上がるほど強くあると感じる。反対に、若者や現在の小中学生は特に性別により日常生活での縛りを感じることなく、個性を大切にしようという心意気をもつように思う。(女性/22歳/正社員・正職員)
 - ・男性は仕事をし、女性は家を守り男性をたてるものという考え方が所々で見えるのが上の世代の方だと感じています。同世代はそういった女性を下に見ることが少ないと思います。(女性/22歳/大学生・大学院生)
 - ・父親や祖父の世代は女性がいないと家庭が成り立たないほど、女性への家事の分担が多いと感じる。しかし自分の世代は家事を分担するのは当たり前だと考えている男性が多いと感じる。(女性/22歳/正社員)

令和2年度 第2回青少年意見募集事業結果

員・正職員)

- ・「女なのになぜ働こうとするのか」等、勝手に思っているだけならまだしも、平気で尋ねてくる辺り、「当たり前」だと思っている考えが違うのだと思う。(女性/23歳/大学生・大学院生)
- ・女性だから料理をする、子供を育てる、出産の痛みにも耐えるという考え方が未だに根強い。女性だから家事、子育てをするのは当たり前ではないという考えが広まってほしい(女性/23歳/正社員・正職員)
- ・働いている女性が少ない。(女性/24歳/正社員・正職員)
- ・同年代の男女で食事に行くときは割り勘だが、年上の男性と行くときはその人と同年代の女性がいても女性より多く払ってくれることが多い。役職が男性のほうが高いことが多いけれど、そこまで払ってくれなくても、と思う額を払ってくださる。なんだかもう当たり前になってきたけれど。(女性/25歳/正社員・正職員)
- ・仕事への考え方、結婚や子育ての考え方が古い人が多いと思う。(女性/25歳/正社員・正職員)
- ・上の世代では、職種が一般職、総合職というように2つに分かれていて、一般的に女性は一般職につくものと思われる傾向にある。総合職で女性が働くと嫌な顔をされる。(女性/26歳/正社員・正職員)
- ・就職活動をする時に親族から「女は就職すると婚期が遅れるから大人しく家にいろ」と言われた。(女性/26歳/正社員・正職員)
- ・業務の内容が性別で決められている。(女性/26歳/正社員・正職員)
- ・上の世代の人は男女の性別を非常に意識しがちなんだろうかというのを感じることがあり、日常会話にしても女性だからとか、男性なのにねとかお話しされることがあります。正直性別はそんなに気にすることでもないと思っています。女じゃ話にならない男を出せとかいうのも偏見ですし、男は働きまくるのが美德というのも終わっているなどと思います。(女性/27歳/正社員・正職員)
- ・女の子の見た目について本人に気づけず言うてしまうタイプの老人に、「それはセクハラです」とか、「褒めていたとしても見た目についていうのはダメです」と言っても、ピンときていない感じがする。死ぬまで認識を変えられないんだろうなと感じる。(女性/27歳/大学生・大学院生)
- ・私は先月第一子を出産しました。私と夫は同い年です。出産にあたり、夫の立ち会いを希望していました。夫の職場では、夫より少し年齢が上の直属の上司は、出産予定日前後の日は仕事に融通を効かせてくれると言ってくれましたが、その上の上司は、立ち会い出産自体に「そんなことで仕事に支障をきたすのか」という考え方だったと聞きました。立ち会い出産にしても、男性の育休にしても、現在は徐々に広がってきましたが、40代、50代の世代の方にはやはり主流ではなかったこともあり、仕事を優先させるべきとの考えの方が強いようです。男女平等の社会を実現するにあたっては、男性も育児に参加しやすいよう、職場環境を整えるための上司への教育も必要であると思います。(女性/27歳/正社員・正職員)
- ・男性優位の発言は年上の方が多いと思う。同世代の同僚はあまり男性だから、女性だからと言わず、LGBTなどへの理解もあると思うため。女性の進学率も過去より上がっているし、家庭科なども男女で共に授業を受けてきたため。(女性/28歳/正社員・正職員)
- ・親の世代は男性が一家の主人であるという認識があるとたまに感じます。大切なことは父に相談するように促されたり、書類提出時の名前が父の名前だったりする時です。(女性/28歳/正社員・正職員)

質問8-1 「男女共同参画社会」の実現をより進めていくためには、どのようなことが重要だと思いますか。最も重要だと思うものを1つだけ選んでください。



- 全体で見ると、「保育の施設・サービスが充実し、子育て中であっても仕事が続けられるようになること」が35.0%で最も高く、次いで「国・地方の議員に女性が增多すること」が16.7%、「男女の平等とお互いの理解や協力について広報・PRすること」が10.3%であった。
- 男女別で見ると、男女とも「保育の施設・サービスが充実し、子育て中であっても仕事が続けられるようになること」が最も高いものの、男性は24.4%であった一方、女性は40.1%であり、性別による認識の差が伺われる結果となった。

令和2年度 第2回青少年意見募集事業結果

上段：人数 下段：(%)		全 体	国・地方の 議員に 女性が 多くなること	国・地方 公共団体の 管理職など に女性が多 くなること	民間企業・ 団体などの 管理職に 女性が多 くなること	これまで、 女性が少な かった分野 (研究者な ど)に 女性が多 くなること	保育の施 設・サービス が充実し、 子育て中 であっても 仕事が続 けられる ようになる こと	高齢者や 病人の施 設や介護 サービス が充実し 、介護中 であっても 仕事が続 けられる ようになる こと	男女の平 等とお互 いの理解 や協力に ついて広 報・PRす ること	その他
全体		263 100.0%	44 16.7%	24 9.1%	23 8.7%	23 8.7%	92 35.0%	7 2.7%	27 10.3%	23 8.7%
性別	男性	86 100.0%	19 22.1%	6 7.0%	5 5.8%	11 12.8%	21 24.4%	3 3.5%	11 12.8%	10 11.6%
	女性	177 100.0%	25 14.1%	18 10.2%	18 10.2%	12 6.8%	71 40.1%	4 2.3%	16 9.0%	13 7.3%
年齢	12～14歳	29 100.0%	4 13.8%	4 13.8%	1 3.4%	4 13.8%	8 27.6%	1 3.4%	4 13.8%	3 10.3%
	15～19歳	128 100.0%	23 18.0%	9 7.0%	10 7.8%	11 8.6%	49 38.3%	5 3.9%	14 10.9%	7 5.5%
	20～24歳	61 100.0%	15 24.6%	6 9.8%	6 9.8%	4 6.6%	18 29.5%	0 0.0%	6 9.8%	6 9.8%
	25～30歳(*1)	45 100.0%	2 4.4%	5 11.1%	6 13.3%	4 8.9%	17 37.8%	1 2.2%	3 6.7%	7 15.6%
性別×年齢	男性12～14歳	12 100.0%	2 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	3 25.0%	2 16.7%	1 8.3%	2 16.7%	2 16.7%
	男性15～19歳	42 100.0%	10 23.8%	2 4.8%	1 2.4%	5 11.9%	12 28.6%	2 4.8%	7 16.7%	3 7.1%
	男性20～24歳	16 100.0%	7 43.8%	2 12.5%	0 0.0%	2 12.5%	2 12.5%	0 0.0%	1 6.3%	2 12.5%
	男性25～30歳(*1)	16 100.0%	0 0.0%	2 12.5%	4 25.0%	1 6.3%	5 31.3%	0 0.0%	1 6.3%	3 18.8%
	女性12～14歳	17 100.0%	2 11.8%	4 23.5%	1 5.9%	1 5.9%	6 35.3%	0 0.0%	2 11.8%	1 5.9%
	女性15～19歳	86 100.0%	13 15.1%	7 8.1%	9 10.5%	6 7.0%	37 43.0%	3 3.5%	7 8.1%	4 4.7%
	女性20～24歳	45 100.0%	8 17.8%	4 8.9%	6 13.3%	2 4.4%	16 35.6%	0 0.0%	5 11.1%	4 8.9%
	女性25～30歳(*1)	29 100.0%	2 6.9%	3 10.3%	2 6.9%	3 10.3%	12 41.4%	1 3.4%	2 6.9%	4 13.8%
属性	中学生	33 100.0%	4 12.1%	5 15.2%	1 3.0%	5 15.2%	10 30.3%	1 3.0%	4 12.1%	3 9.1%
	高校生	83 100.0%	15 18.1%	4 4.8%	5 6.0%	9 10.8%	29 34.9%	3 3.6%	13 15.7%	5 6.0%
	専門学校・ 短大などの学生	20 100.0%	3 15.0%	1 5.0%	0 0.0%	1 5.0%	12 60.0%	1 5.0%	1 5.0%	1 5.0%
	大学生・大学院生	76 100.0%	17 22.4%	7 9.2%	14 18.4%	3 3.9%	25 32.9%	1 1.3%	4 5.3%	5 6.6%
	パート・アルバイト・ 派遣社員・契約社員	6 100.0%	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 16.7%	1 16.7%	3 50.0%	0 0.0%
	正社員・正職員	42 100.0%	4 9.5%	5 11.9%	3 7.1%	5 11.9%	14 33.3%	0 0.0%	2 4.8%	9 21.4%
	専業主婦(夫)、 家事手伝い	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	無業者	2 100.0%	0 0.0%	2 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%

*1: 令和2年4月1日時点では29歳だったが調査時点で30歳となった3名(男性2名、女性1名)含む

質問8-2 (質問8-1で「その他」を選んだ方) 具体的に教えてください。(自由記述)

《男性からの意見》

- ・男性と女性の賃金の違いを少なくすることで、女性が会社で働くことによるメリットを増やすこと。
(男性/13歳/中学生)
- ・そのままがいいと思う。そもそも女性は議員選挙に出馬しにくい節があるから。(男性/14歳/中学生)
- ・そもそもそのような考えを辞めること。(男性/17歳/高校生)
- ・そもそも女性どころか男性でもビジネスや国際問題に興味のないものが多く、みんな社会活動(?)に参加しようとしていない。この前学校の女性の教師に「選挙権を手に入れたのですが(18歳になったのですが)選挙初心者でよくわかりません。どうしたらいいですか」と質問したら「何もしなくていいです」と即答された。ショックだった…。もしこれが私の高校だけの話なら申し訳ない。今の私の知識だと、そもそも男女共同参画社会に関心のない者が多すぎるので、興味を惹くために、講習会を開いたり、問題点の記載されたパンフレットを配った方が良いと思う。(男性/18歳/高校生)
- ・何もしないこと。こうやって男女差別だ格差だと言っているだけでも少しは改善されるかもしれないが残ってしまうと思う。今の若い世代はそういったこうあるべきだという思想を持った人は少ないと思う。なので、時間が経てばなくなるのではないだろうか。(男性/19歳/大学生・大学院生)
- ・そもそも議員や管理職に女性が増えるのがなぜ平等につながるのか意味がわからない。真の男女平等は能力、結果主義であろうはずなのにそもそも国として平等とは何かを先に定義するという重要な仕事があるはずである。私が信じる能力、結果主義の結果女性比率が増えるのであればそれは素晴らしい事であり、女性であるからとりあえず管理職にしとけは愚の骨頂である。(男性/22歳/正社員・正職員)
- ・働くことに於いて男女を絶対的に必ずしも平等にすることが必要ではないと考える。それぞれの強みや弱み、体調や体格的な身体的特徴などの差異など、それぞれが働きやすい職場へと変えていくことが必要と考えられる。人数を揃えたところで、それが必ずしも正しいこととは考えにくく、適正もあるため、それぞれがより自由に生活しやすい、働きやすい環境を整備していくことが必要と考えられる。そもそもこの男女不平等の問題については、働く場以前に教育としてこういった差を作らないように教育していくことが先だと考える。今ある現場におかしいといえる人があまりにも少なく、いつまでも社会が変わらないというスパイラルが続くことが一番よくないことであり、世論として、今ある不平等を自浄していく知識や意見を上げられるように教育の中に盛り込んでいく必要があると考えられる。(男性/23歳/大学生・大学院生)
- ・質問 8-1にあることは全て大切だと思うが、実現する為に女性という性別のみに基づく優遇をするのではなく性別に関係なく単に能力を評価する仕組みが必要であると思う。例えば議員の場合女性を増やすため女性だから票数を10%増す事は逆に男性へ不当な差別となると思う。また女性の能力を不当に低く見積もっているとも言える。LGBTなど従来の性別の区別が当てはまらない場合もある。男だから女だからとって思想や行動を制約してはいけないという理解を国民全体で共有することが8-1の項目を達成することに繋がる。その為に幼少期から女の子っぽい遊びや男っぽい遊びなど性別によって決めつけることを止めたり、小学校から性別に関する議論を始めるべきと思う。しかし大人や先生は

令和2年度 第2回青少年意見募集事業結果

性別による差別のある社会で生きてきたので、それに気づくことは難しく教えることも難しくなると思う。旧来の意見を含め男女共同参画社会についての考えを共有できる場をオンラインや実際の対面も含め政府や地方自治体を作るべきと思う。(男性/26歳/大学生・大学院生)

- ・逆に女性の職場と思われる所に男性を多く雇うこと。保育士、ナース、CAなど。(男性/27歳/正社員・正職員)
- ・学校教育でしっかりとジェンダー平等教育を学ぶ機会を保障すべき。上の世代は変わらない、ただ、制度があれば否応なしに変わらざるを得ない。今からの世代は、制度がなくても、それを作っていけるように、ジェンダー平等、人権教育を学び、男女共同参画社会を実現してほしい。(男性/29歳/正社員・正職員)

《女性からの意見》

- ・性別を必要以上に意識しない社会をつくること。そのために、「男女」という言葉自体を死語にする。また、そのような教育を、義務教育段階の「保健」「社会」「公民」で行う。(女性/13歳/中学生)
- ・男性が育休を取りやすい環境にすること。(女性/16歳/高校生)
- ・全ての男性の意識改革。性別役割分担意識が強い大人には期待できないため、小学校～大学の就学期間に男女共同参画を学ぶ機会を増やし、社会に出る時点で男女共同参画 native の若者を増やすことが先決。さらに、社会のあらゆる分野で女性管理職を増やすことが重要。(選択肢のように1分野だけ増やしただけでは全く不十分。)(女性/17歳/高校生)
- ・投票者に若い女性が増えること。どんなに議員に女性が増えても年寄りのための政治になれば意味がない。(女性/18歳/専門学校・短大などの学生)
- ・仕事の採用は性別ではなく即戦力で決める。スウェーデンで掲げている「ファミリー・フレンドリー」のようなものを作り、子育てのサポートを充実させる。(女性/18歳/高校生)
- ・男性の育児参加を当然と考える会社を増やすこと。(女性/21歳/大学生・大学院生)
- ・育休、産休を義務付け、その基準を厳しくすること。こまめにチェックすること。育休制度や産休制度があります、とうとう会社はたくさんあるが、名ばかりでとりづらい会社が非常に多い。優良企業は、積極的にPRや表彰を行い、企業にはそれを取り入れるメリットを感じてもらえるようにする。(女性/21歳/大学生・大学院生)
- ・小学校から男女共同参画についてもっと学ぶべきだと思う。男女で分けられる場面が小学校の時から多すぎたため。(女性/22歳/正社員・正職員)
- ・女性が男性と同じように仕事ができるようにする。結婚、出産、夫の転勤など本人ではどうしようもない事情で仕事を諦めることが多い女性のために在宅でできる仕事を多く提供する。(女性/23歳/正社員・正職員)
- ・国・地方の議員に女性が多くなること、国・地方公共団体の管理職などに女性が多くなること、民間企業・団体などの管理職に女性が多くなること、これまで、女性が少なかった分野(研究者など)に女性が多くなること、保育の施設・サービスが充実し、子育て中であっても仕事が続けられるようになること、高齢者や病人の施設や介護サービスが充実し、介護中であっても仕事が続けられるようになること。これらに加え、女性に対する保障(妊娠・出産・子育てなど)や制度が増えること、給料の格差がなくなることだと考える。一方で、男性も休みを取りやすく、育児に参加しやすい社会の風潮、制度があ

令和2年度 第2回青少年意見募集事業結果

ること。そのことについての考えが広まること。そもそも社会全体での仕事の在り方について見直すこと。それ以外に、議員や管理職に増える女性が、家事・育児を頑張りながらも仕事もやっていきたいと考えている人であること。その人たちの意見や思いがきちんと分かる、伝わること。その女性だけでなく、他の議員や管理職の人たちもが、更に下の世代たちの思いや考えをくみ取っていくこと。(女性/25歳/正社員・正職員)

- ・性差を理解して、例外を受け入れながら個人ごとの思い描くキャリアと生涯設計を勘案しながら進める。無理に女性比率を増やしても能力がなかったり、能力がないのに昇進させたりというのはおかしいし、女として馬鹿にされているように感じる。(女性/26歳/正社員・正職員)
- ・男女共同参画というと、女性のために保育サービスを充実させたり短時間労働をさせてあげたりと、女性のためにとというのが強調されがちで、働きやすい社会を作ってあげようと考えられがちなのかなと私は思っています。そうではなくて、男性もその主体になってほしいです。女性だけそういう制度を利用するのは男性差別、女性差別につながるのではないかと思います。女性が輝ける社会にというキャッチフレーズをどこかで聞いたことがあります。じゃあ男性は輝いているのか？と疑問に思います。男性にも輝いてほしいです。また、選択的夫婦別姓制度を導入すべきだと思います。現状、女性が改姓するパターンや、改姓しろよと迫られるケースが多いと聞きます。改姓は、仕事上や手続き面、アイデンティティの喪失等、不利益・デメリットがあるのに、それを夫婦どちらかに押しつけるのは理不尽だと思います。改姓がネックとなって結婚に踏み切れないパターンもあると聞きます。改姓したことで仕事に影響がある等、男性女性それぞれ社会人生活を送る上では、選択的夫婦別姓制度は必要だと思います。(女性/27歳/正社員・正職員)
- ・一度仕事を辞めると専門職でない限り女性はとても弱い立場になり再就職も難しい印象がある。保育サービスの充実はもちろん、育休期間を延ばしたり再就職しやすい社会だとよいのと思う。教育現場でも自分の人生やパートナーとの理想の関係をどう考えるか、小さい頃から伝えて行ってほしいと思う。(女性/28歳/正社員・正職員)